

第2 結果の概要

解析対象者数は、図表中【 】内に併記した。

なお、集計客体数並びに結果の概要に掲載している数値は四捨五入のため、内訳合計が総数と合わないことがある。

グラフ化した部分については、データを加工して作成し、集計表は粗集計の結果を掲載しているため、図表と集計表の数値が一致しない場合がある。

図中の調査年度と調査名について

1999(H11)：県民健康・栄養調査

2004(H16)：県民健康・栄養調査

2011(H23)：県民健康・栄養調査

2016(H28)：県民健康意識調査

1 全体概要

全体概要について、一覧にまとめた。詳細については、17ページ以降に示す。

調査項目			結果	特徴など	
肥満とやせの状況（自己申告の身長及び体重によるBMI）	肥満の割合	男性	25.7%	40歳代が最も高い（29.0%）	
		女性	19.5%	60歳代、70歳以上がともに最も高い（25.2%）	
	やせの割合	男性	3.7%	20歳代が最も高い（11.1%）	
		女性	10.1%	20歳代が最も高い（16.9%）	
低栄養傾向高齢者			18.4%	75歳以上が最も高い（20.6%）	
食生活	(1) 健康に配慮した食生活の状況	している	男性	64.6%	60歳代が最も高い（71.9%）
			女性	76.1%	70歳以上が最も高い（83.4%）
	(2) 1日2回以上主食・主菜・副菜がそろう食事の頻度	ほとんど毎日	男性	46.3%	70歳以上が最も高い（55.7%）
			女性	48.1%	70歳以上が最も高い（60.3%）
	主食・主菜・副菜のうち、そろえられないもの	男性			「副菜」と回答した者の割合が最も高い（68.9%）
		女性			「副菜」と回答した者の割合が最も高い（66.8%）
	食事の頻度別主食・主菜・副菜のうち、そろえられないもの	男性			頻度にかかわらず、「副菜」と回答した者の割合が60%を超えている
		女性			頻度にかかわらず、「副菜」と回答した者の割合が60%を超えている
(3) 外食（飲食店での食事）の利用状況	男性			「週1回未満」と回答した者の割合が最も高い（45.0%）	
	女性			「週1回未満」と回答した者の割合が最も高い（49.3%）	
(4) スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の弁当や惣菜の利用状況	男性			「週1回未満」と回答した者の割合が最も高い（35.1%）	
	女性			「週1回未満」と回答した者の割合が最も高い（41.8%）	
朝食	(1) 習慣的な朝食欠食の状況	男性	11.6%	20歳代が最も高い（36.1%）	
		女性	8.5%	20歳代が最も高い（18.3%）	
	(2) 朝食欠食が始まった時期	20歳以上から	男性	56.0%	-
			女性	65.8%	-
		小、中、高校生から	男性	24.3%	-
			女性	16.4%	-
	(3) 朝食を食べない理由	男性			「食欲がない」と回答した者の割合が最も高い（22.4%）
		女性			「時間がない」と回答した者の割合が最も高い（26.6%）
(4) 朝食の欠食改善に必要な支援	男性			「家族や周りの人の支援（朝食を用意してくれる）」と回答した者の割合が最も高い（47.8%）	
	女性			「自分で朝食を用意する努力」と回答した者の割合が最も高い（60.6%）	
野菜摂取	(1) ふだんの野菜摂取の状況	食べている	男性	33.9%	20歳代が最も低い（16.7%）
			女性	41.7%	20歳代が最も低い（18.3%）
	野菜を食べない理由	男性			「野菜の価格が高い」と回答した者の割合が最も高い（32.1%）
		女性			「野菜の価格が高い」と回答した者の割合が最も高い（52.3%）
(2) 野菜をたくさん食べるためにスーパーマーケット等に期待すること	男性			「飲食店や惣菜・弁当等に野菜の量が多いメニューが増える」と回答した者の割合が最も高い（42.3%）	
	女性			「飲食店や惣菜・弁当等に野菜の量が多いメニューが増える」と回答した者の割合が最も高い（41.9%）	
その他の生活	(1) 菓子パンの摂取状況	男性	41.8%	40歳代が最も高い（46.7%）	
		女性	52.4%	30歳代が最も高い（68.0%）	
	菓子パンで代替する食事	男性			「朝食」と回答した者の割合が最も高い（61.0%）
		女性			「朝食」と回答した者の割合が最も高い（66.0%）
	(2) 食品購入時の栄養成分表示参考状況	いつも及び時々参考	男性	31.7%	70歳以上が最も高い（40.0%）
			女性	57.9%	70歳以上が最も高い（66.2%）
	(3) 健康食品の摂取状況	男性			31.4% 30歳代が最も高い（40.0%）
		女性			43.6% 70歳以上が最も高い（50.3%）
サプリメント等健康食品の摂取目的	男性			「健康増進のため」と回答した者の割合が最も高い（66.8%）	
	女性			「健康増進のため」と回答した者の割合が最も高い（66.4%）	

調査項目			結果	特徴など	
運動	(1) 「運動習慣のある者」 (国定義) の状況	男性	23.0%	70歳以上が最も高い (30.7%)	
		女性	15.3%	70歳以上が最も高い (24.5%)	
	(2) 運動以外で体を動かすように 心がけている者	男性	51.6%	70歳以上が最も高い (57.9%)	
		女性	56.1%	70歳以上が最も高い (74.8%)	
	運動以外で体を動かすように 心がけている内容	男性	「できるだけ階段を使う」と回答した者の割合が最も高い (64.9%)		
		女性	「できるだけ階段を使う」と回答した者の割合が最も高い (60.5%)		
	(3) 運動以外での歩行頻度	週3日以上	男性	47.7%	20歳代が最も高い (58.3%)
			女性	47.6%	60歳代が最も高い (53.4%)
週3日未満		男性	49.7%	40歳代が最も高い (55.1%)	
		女性	50.8%	20歳代が最も高い (61.6%)	
運動や体を動かすことの 妨げとなっているもの	男性	「時間がないこと・忙しいこと」と回答した者の割合が最も高い (41.3%)			
	女性	「時間がないこと・忙しいこと」と回答した者の割合が最も高い (45.7%)			
喫煙	(1) 喫煙の状況 現在習慣的に喫煙している者	男性	26.1%	30歳代が最も高い (33.8%)	
		女性	7.7%	40歳代が最も高い (12.8%)	
	喫煙している者が吸っている たばこの種類	紙巻たばこ (従 来型のたばこ)	男性	75.6%	-
			女性	66.1%	-
		加熱式たばこ	男性	26.9%	-
			女性	33.9%	-
	(2) 習慣的に1日21本以上 喫煙する者の状況	男性	10.3%	30歳代が最も高い (18.2%)	
		女性	1.7%	50歳代が最も高い (8.3%)	
	1日の平均喫煙本数	男性	17.0本	-	
		女性	11.6本	-	
(3) 禁煙の意思	男性	37.2%	20歳代が最も高い (50.0%)		
	女性	40.7%	30歳代が最も高い (55.6%)		
禁煙治療が受けられる 身近な医療機関の認知	男性	43.6%	60歳代が最も高い (52.3%)		
	女性	49.2%	20歳代が最も高い (100.0%)		
(4) 受動喫煙の機会	受動喫煙の場所	「路上」が18.8%、次いで「職場」17.3%と高い			
飲酒	(1) 飲酒の状況	男性	35.1%	50歳代が最も高い (45.5%)	
		女性	9.3%	50歳代が最も高い (16.3%)	
(2) 生活習慣病のリスクを高める 量の飲酒	男性	13.8%	-		
	女性	9.8%	-		
睡眠による休養の状況	十分、まあまあ とれている	男性	82.9%	70歳以上が最も高い (90.0%)	
		女性	76.0%	60歳代が最も高い (87.1%)	
	あまり、全く とれていない	男性	16.1%	50歳代が最も高い (22.7%)	
		女性	23.2%	30歳代が最も高い (34.0%)	
ロコモティブシンドローム (運動器症候群) の 認知度	男性	22.3%	50歳代が最も高い (29.6%)		
	女性	34.5%	50歳代が最も高い (39.0%)		
COPD (慢性閉塞性肺疾患) の 認知度	男性	14.8%	40歳代が最も高い (20.6%)		
	女性	21.1%	40歳代が最も高い (24.3%)		
フレイル (虚弱) の認知度	男性	14.1%	70歳代が最も高い (20.0%)		
	女性	23.7%	70歳以上が最も高い (29.8%)		
過去1年間の地域・グループ活動の参加状況	町内会や地域行事	年に数回以上参加すると回答した者の割合 (男性50.8%,女性42.8%)			
	ボランティア活動	年に数回以上参加すると回答した者の割合 (男性23.6%,女性18.4%)			
	スポーツ関係のグループ活動	年に数回以上参加すると回答した者の割合 (男性22.3%,女性16.2%)			
	趣味関係のグループ活動	年に数回以上参加すると回答した者の割合 (男性22.4%,女性17.8%)			
	その他のグループ活動	年に数回以上参加すると回答した者の割合 (男性13.0%,女性12.3%)			

調査項目		結果	特徴など	
歯 ・ 状 口 腔 の	(1) 口腔の自覚症状の状況 (ほぼ満足している)	男性	32.9% -	
		女性	34.1% -	
	(2) 口腔内で不満を感じる症状	男性	「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者の割合が最も高い (63.5%)	
		女性	「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者の割合が最も高い (59.8%)	
	(3) かかりつけ歯科診療所等 の有無	男性	68.5%	70歳以上が最も高い (77.1%)
		女性	80.7%	70歳以上が最も高い (87.4%)
	1年以内の歯科健康診査 の受診状況	男性	44.8%	70歳以上が最も高い (55.0%)
		女性	55.2%	70歳以上が最も高い (62.3%)
	歯科健診の受診場所	歯科診療所	96.2%	-
	1年以内の歯科診療 の受診状況	男性	50.8%	70歳以上が最も高い (56.4%)
		女性	60.2%	30歳代が最も高い (67.0%)
	1年以内の歯科診療内容	男性	「定期的な歯石除去や歯の清掃などの健康管理」と回答した者の割合が最も 高い (66.7%)	
		女性	「定期的な歯石除去や歯の清掃などの健康管理」と回答した者の割合が最も 高い (74.9%)	

2 肥満とやせの状況 身長及び体重の自己申告によるもの

自己申告の身長と体重に基づく BMI の判定による肥満者（BMI $\geq 25\text{kg/m}^2$ ）の割合は、男性 25.7%、女性 19.5%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は 40 歳代で 29.0%、女性は 60 歳代、70 歳以上がともに 25.2%であった。（図 1）（図 2）
 やせの者（BMI $< 18.5\text{kg/m}^2$ ）の割合は、男性 3.7%、女性 10.1%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは男女ともに 20 歳代で、男性 11.1%、女性 16.9%であった。（図 3）
 また、65 歳以上の高齢者で、低栄養傾向（BMI $< 20\text{kg/m}^2$ ）にある者の割合は 18.4%で、その割合が最も高かったのは、75 歳以上で 20.6%であった。（図 4）

図1 自己申告に基づく BMI による体格判定の割合（性・年齢階級別）

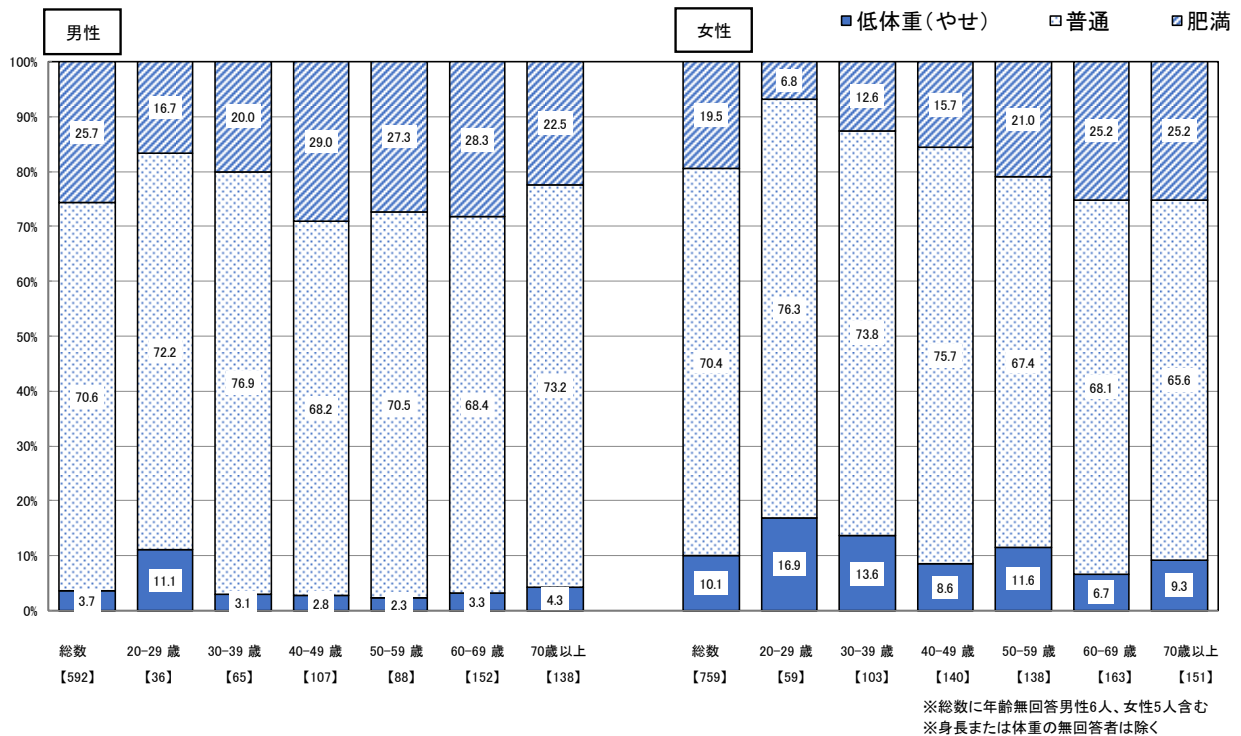


図2 肥満者（BMI $\geq 25\text{kg/m}^2$ ）の割合（性・年齢階級別）

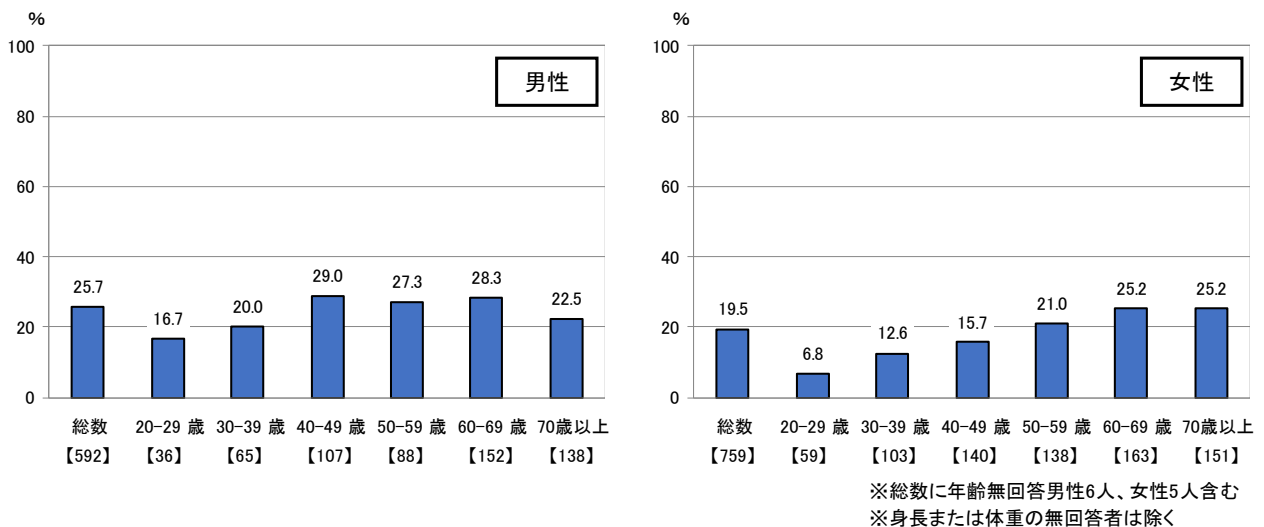


図3 やせの者 (BMI <18.5kg/m²) の割合 (性・年齢階級別)

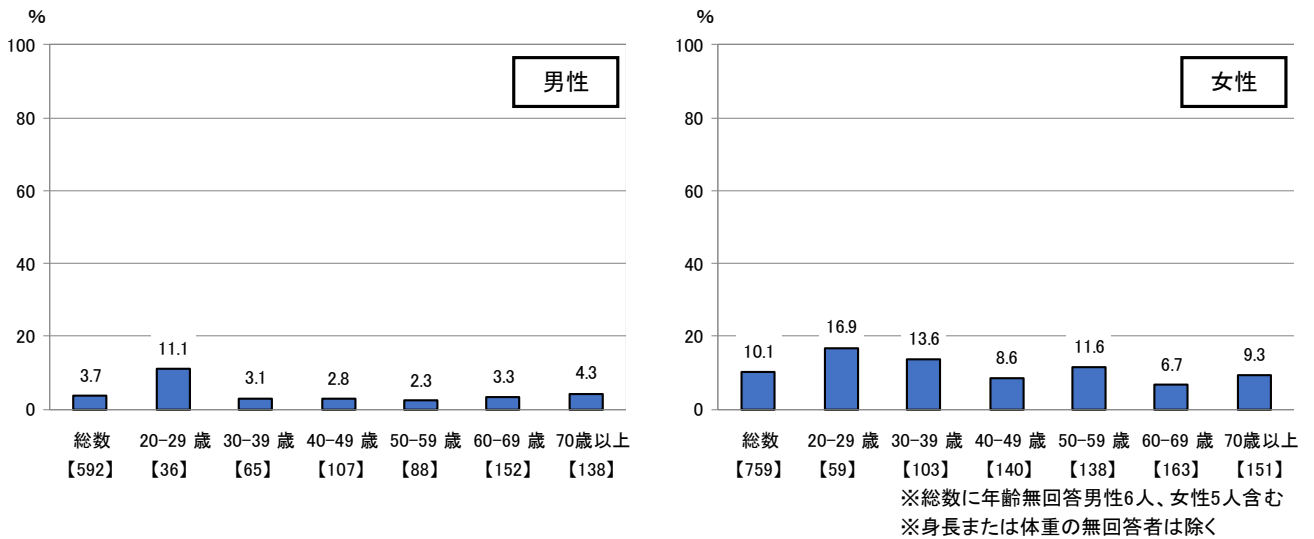
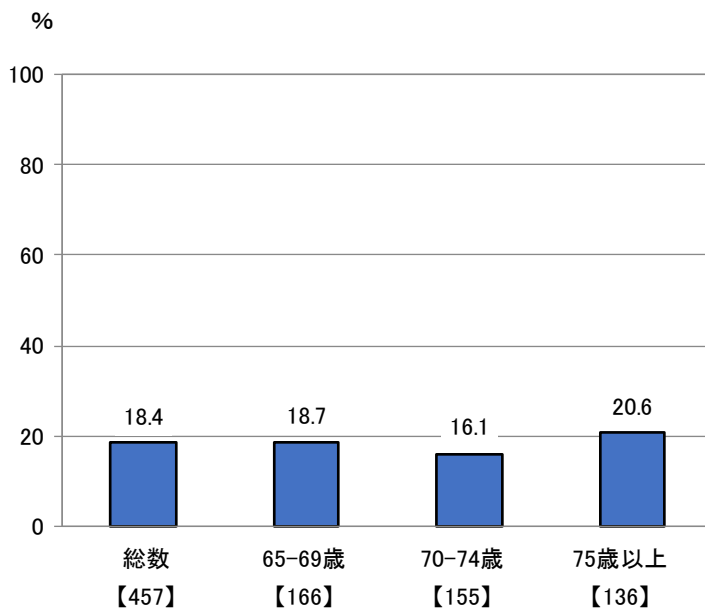


図4 低栄養傾向 (BMI 20kg/m²) の高齢者の割合 (65歳以上、年齢階級別)



3 食生活習慣の状況と意識

(1) 健康に配慮した食生活の状況

健康に配慮した食生活をしていると回答した者の割合は、男性 64.6%、女性 76.1%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は 60 歳代で 71.9%、女性は 70 歳以上で 83.4%であった。男女ともに年齢が高くなるほど「健康に配慮している」と回答した者の割合が高い傾向にあった。(図 5)

配慮している内容は、男性は「1 日 3 食を規則正しく食べる」「野菜をたくさん食べる」「間食や夜食を控える」の順に、女性は「野菜をたくさん食べる」「1 日 3 食を規則正しく食べる」「主食・主菜・副菜のそろった食事をする」の順にその割合が高かった。

また、男性に比べて女性の方が健康に配慮している内容が多かった。(図 6)

図 5 健康に配慮した食生活の状況(性・年齢階級別)

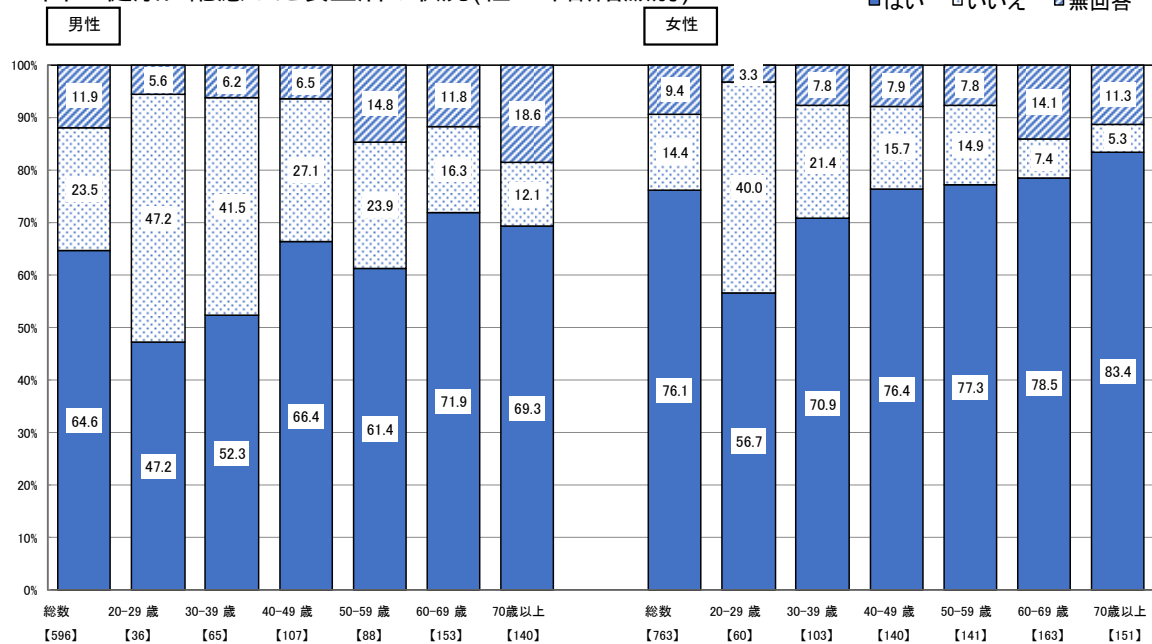
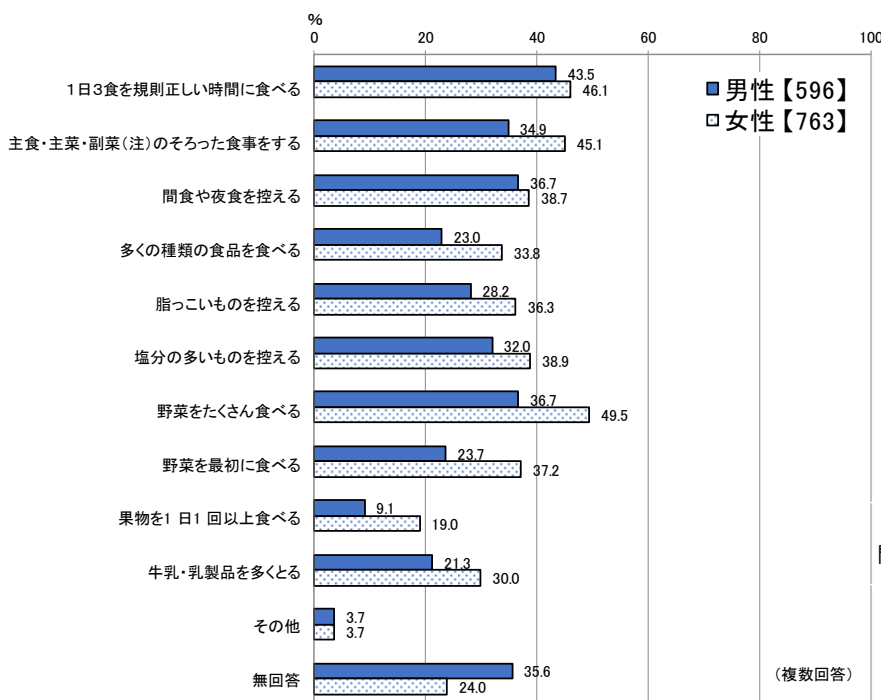


図 6 健康に配慮した食生活の内容(性別)



健康を意識した食生活をしていますかの問いに対し、「はい」と回答した者が回答

(複数回答)

※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

(2) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、男性46.3%、女性48.1%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに70歳以上で男性55.7%、女性60.3%であった。(図7)

食事で主食・主菜・副菜のうち、そろえられないものは、男女ともに「副菜」と回答した者の割合が最も高く、男性68.9%、女性66.8%であった。(図8)

また、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上食べる頻度にかかわらず、主食・主菜・副菜のうちそろえられないものは、「副菜」と回答した者の割合が最も高く、その割合は男女ともに60%を超えていた。(図9)

図7 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる頻度

(性・年齢階級別)

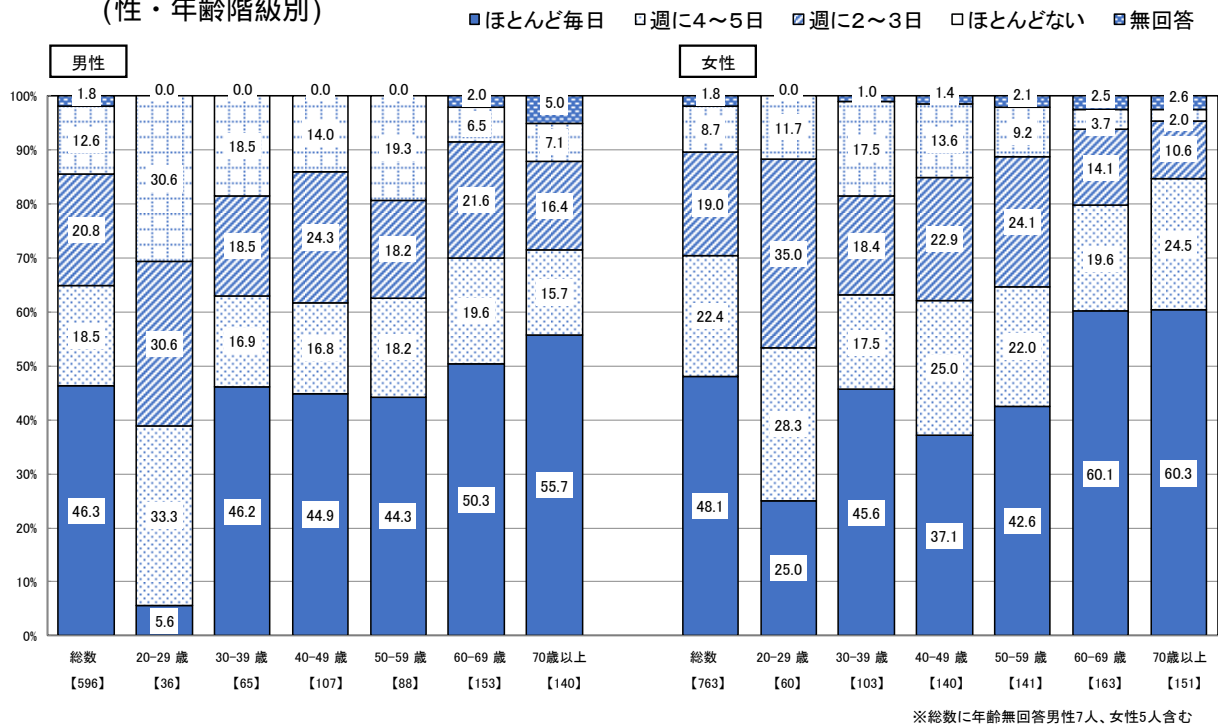
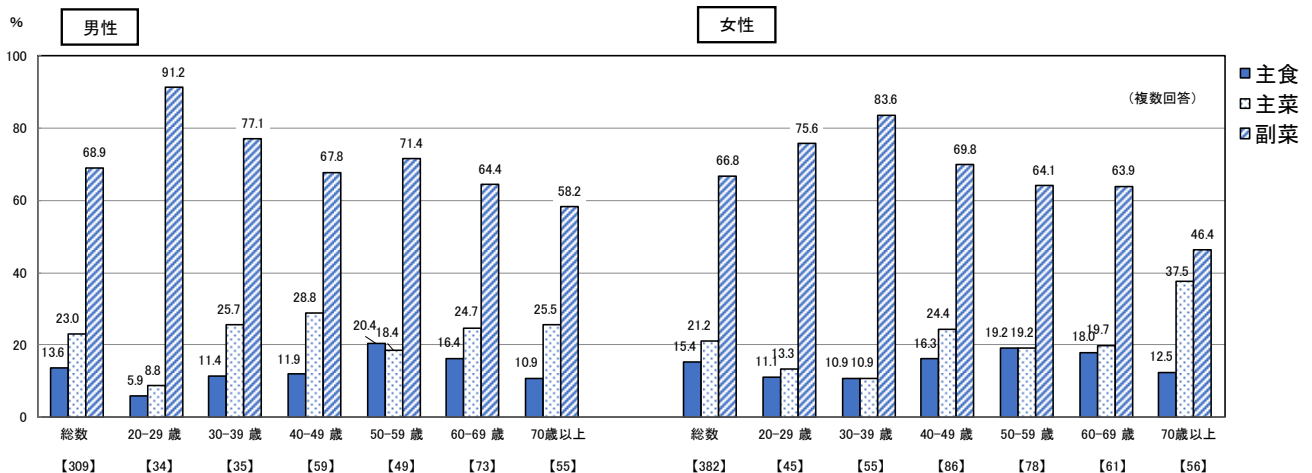
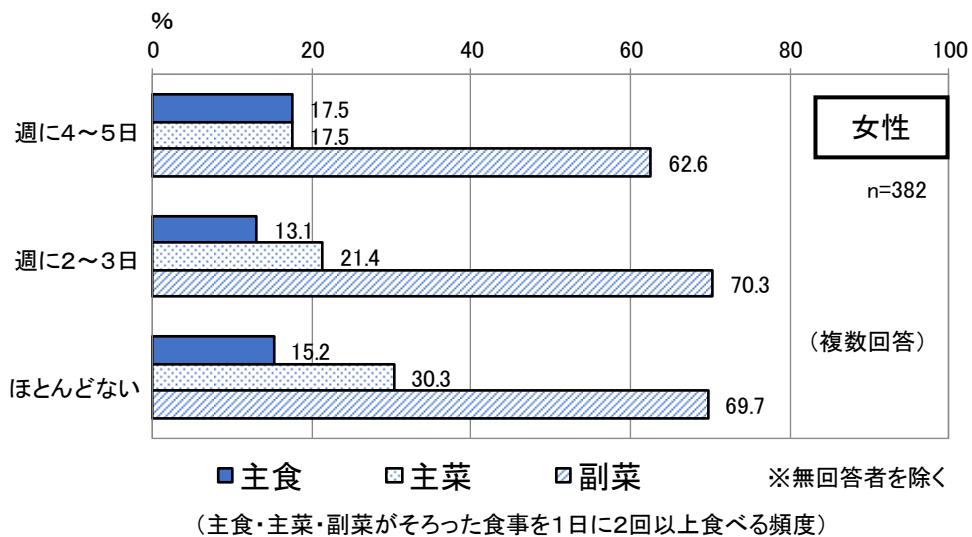
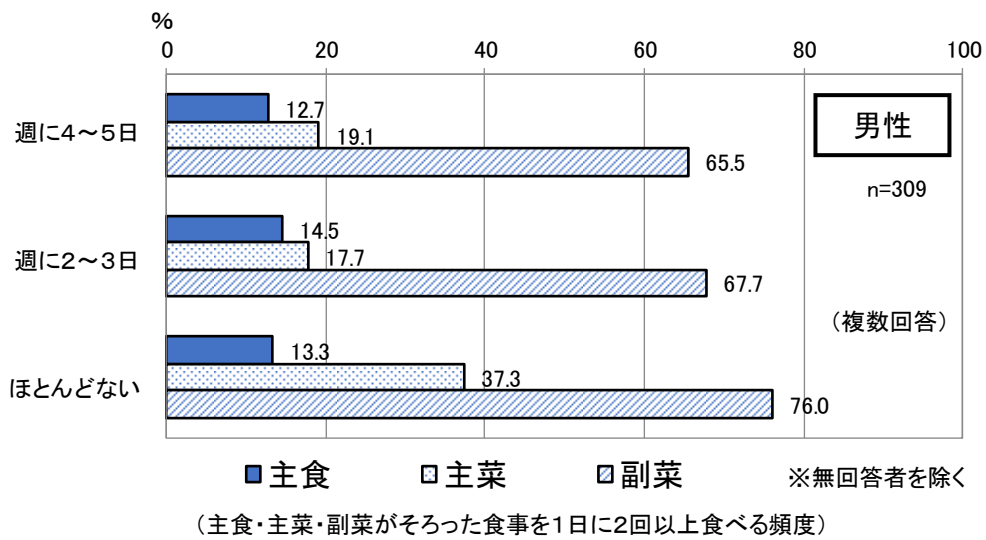


図8 主食・主菜・副菜のうち、そろえられないもの(性・年齢階級別)



1日の食事の中で、主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上食べることは週に何日ありますかの問いに対し、「週に4~5日」「週に2~3日」「ほとんどない」と回答した者が回答

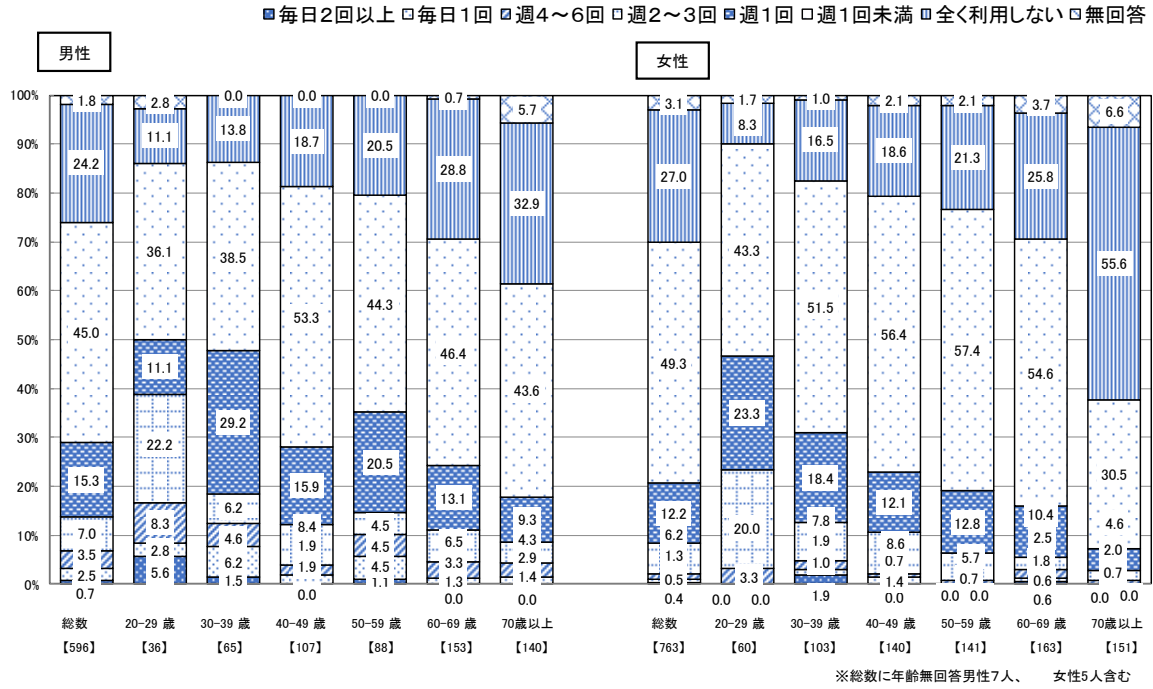
図9 主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上食べる頻度別、主食・主菜・副菜のうち、そろえられないもの（性別）



(3) 外食（飲食店での食事）の利用状況

外食（飲食店での食事）の利用を「週1回未満」と回答した者の割合が最も高く、男性45.0%、女性49.3%であった。また、外食を「週1回」以上利用していると回答した者の割合が最も高かったのは男女ともに20歳代で男性50.0%、女性46.6%であった。（図10）

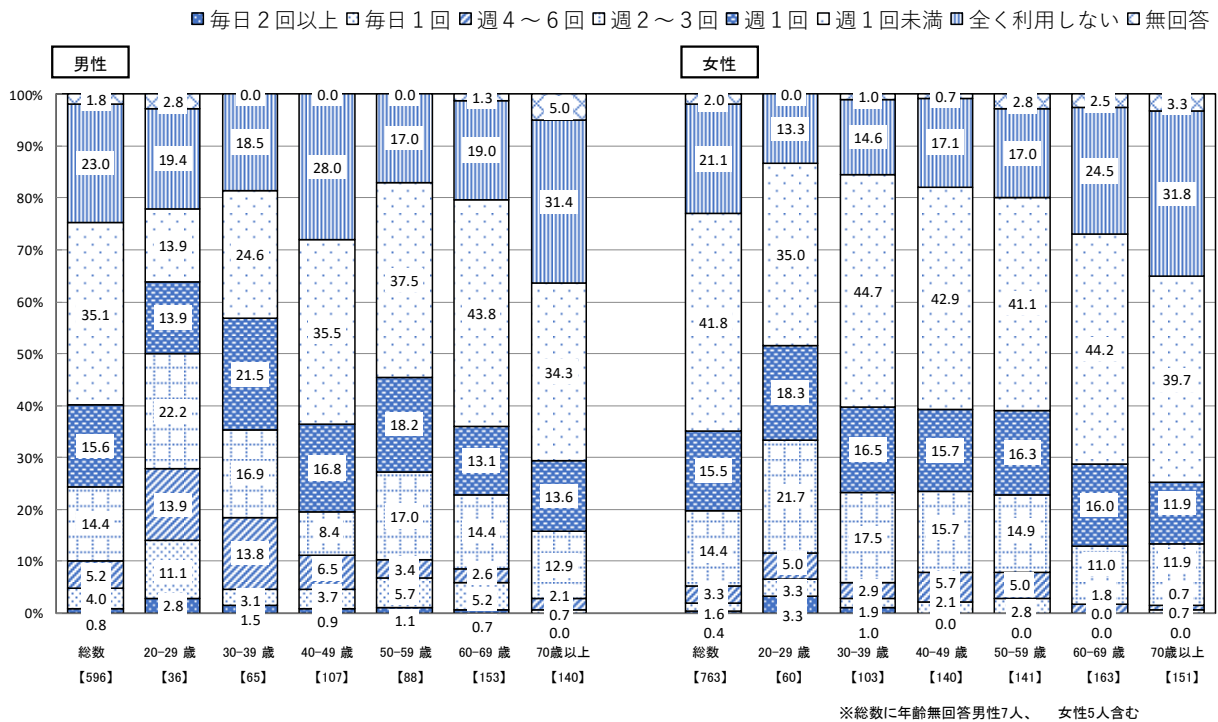
図10 外食（飲食店での食事）の利用状況(性・年齢階級別)



(4) スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の弁当や惣菜の利用状況

スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の弁当や惣菜の利用を「週1回未満」と回答した者の割合が最も高く、男性35.1%、女性41.8%であった。また、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の弁当や惣菜を「週1回」以上利用していると回答した者の割合が最も高かったのは、男女ともに20歳代で男性63.9%、女性51.6%であった。(図11)

図11 スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の弁当や惣菜の利用状況
(性・年齢階級別)

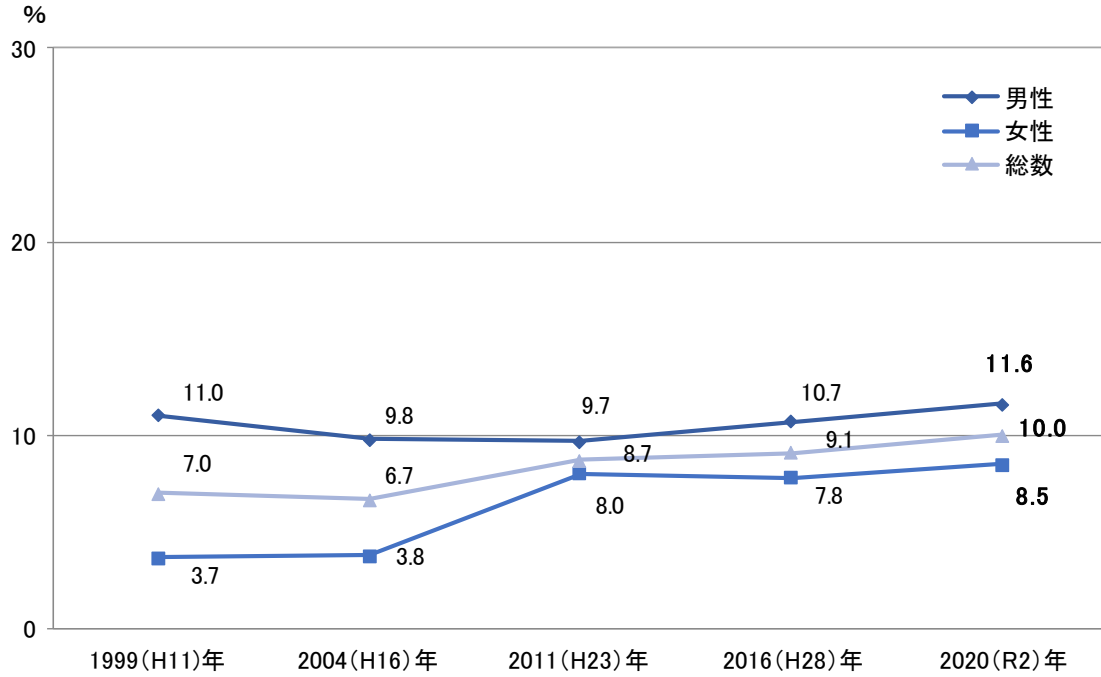


4 朝食欠食に関する状況

(1) 習慣的な朝食欠食の状況

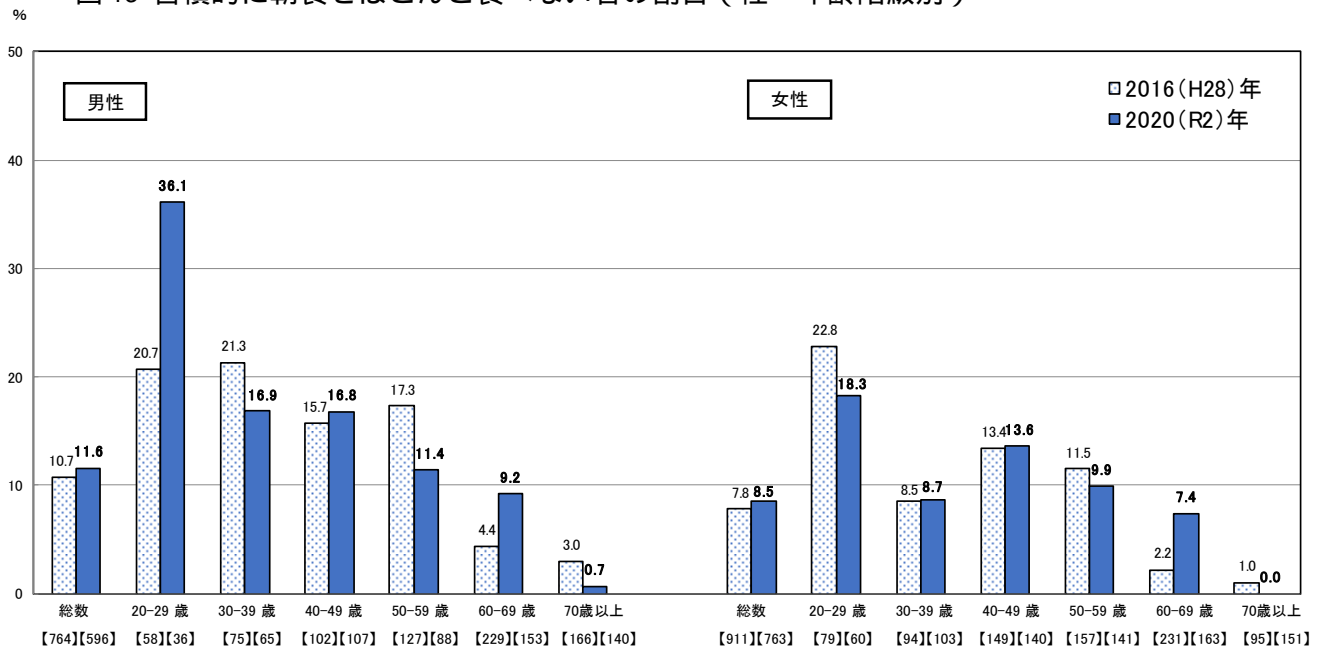
習慣的に朝食をほとんど食べない者の割合は、男性 11.6%、女性 8.5%で、2016（H28）年と比較して男女ともに増加した。（図 12）
 また、年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに 20 歳代で男性 36.1%、女性 18.3%であった。特に 2016（H28）年と比較して男性 20 歳代でその割合が増加した。（図 13）

図 12 習慣的に朝食をほとんど食べない者の割合（性別）



習慣的に朝食を欠食している者：「ふだん朝食を食べますか」の問いに対し、「週 2～3 日食べない」「週 4～5 日食べない」「ほとんど食べない」と回答した者

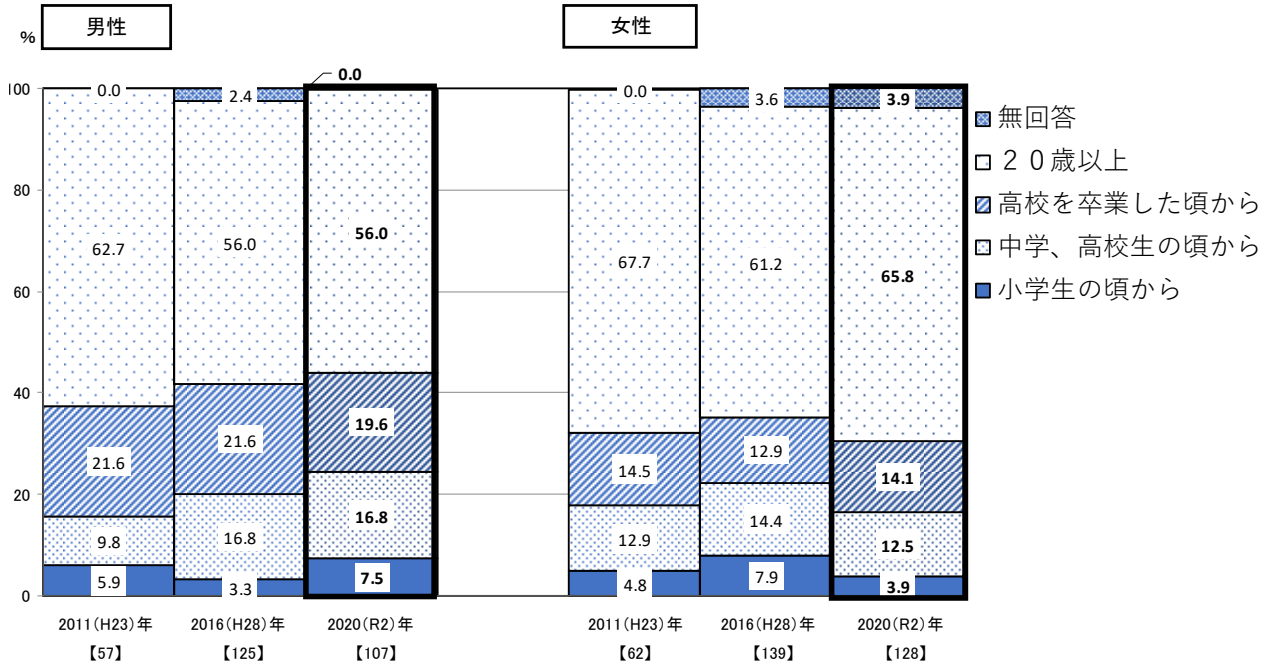
図 13 習慣的に朝食をほとんど食べない者の割合（性・年齢階級別）



(2) 朝食欠食が始まった時期

習慣的に朝食を欠食している者で、朝食欠食が始まったのは、「20歳以上」と回答した者の割合が最も高く、男性56.0%、女性65.8%であった。また、朝食を食べない習慣が始まったのが、「小学生の頃から」及び「中学、高校生の頃から」と回答した者の割合を合わせると、男性24.3%、女性16.4%であった。(図14)

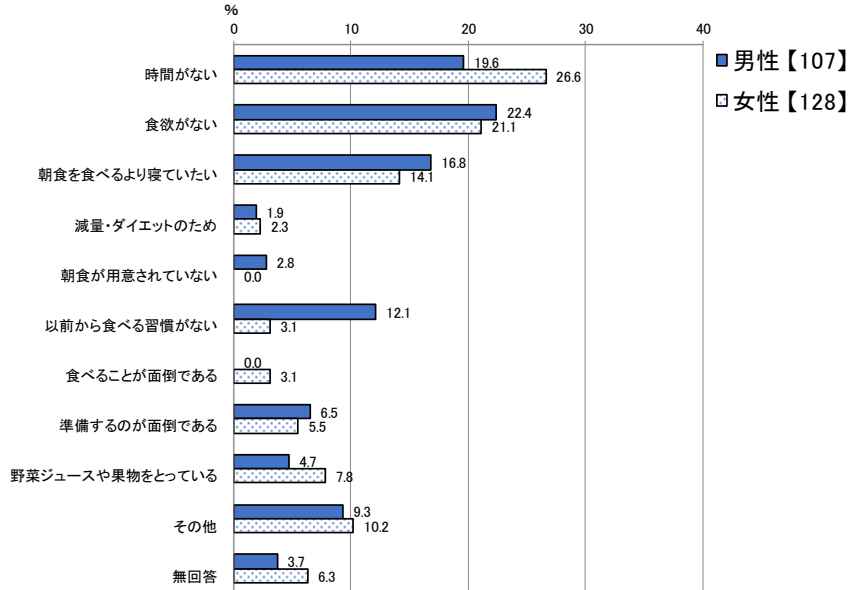
図14 朝食欠食が始まった時期(性別)



(3) 朝食を食べない理由

習慣的に朝食を欠食していると回答した者で、朝食を食べない理由として、男性は「食欲がない」と回答した者の割合が22.4%、女性は「時間がない」と回答した者の割合が26.6%と最も高かった。(図15)

図15 習慣的に朝食を欠食している者における、朝食を食べない理由の割合(性別)

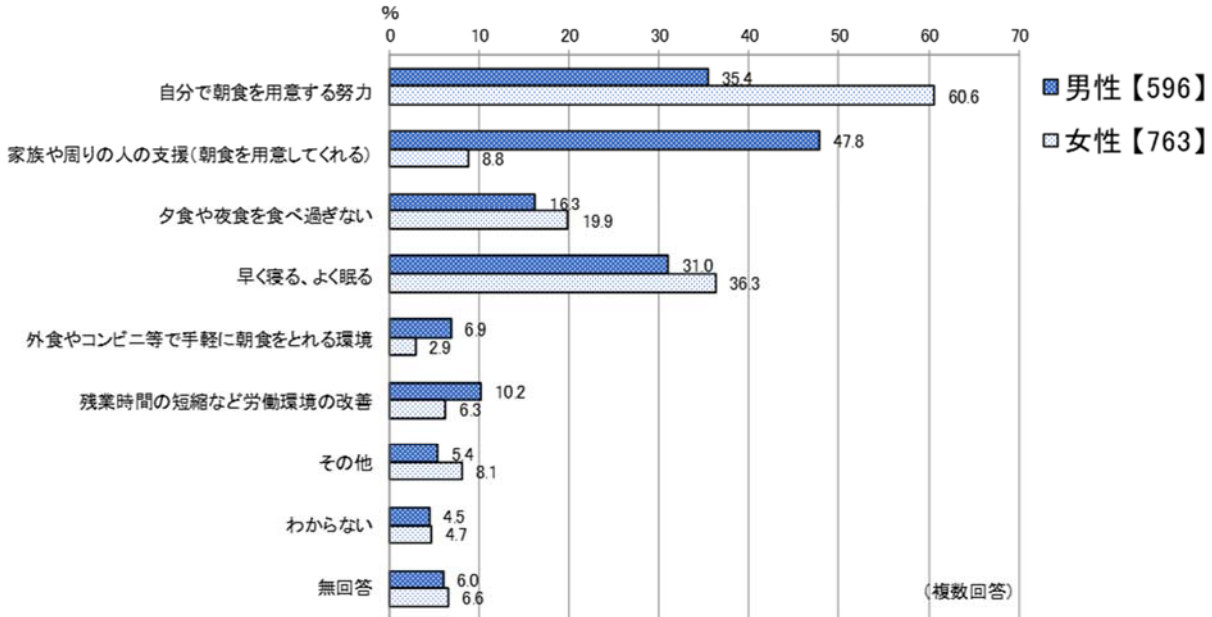


※総数に年齢無回答男性2人、女性1人含む

(4) 朝食の欠食改善に必要な支援

今より（今までどおり）朝食を食べるために必要なことは、男性は「家族や周りの人の支援（朝食を用意してくれる）」と回答した者の割合が47.8%、女性は「自分で朝食を準備する努力」と回答した者の割合が60.6%と最も高く、男女で必要な支援内容に差があった。（図16）

図16 今より（今までどおり）朝食を食べるために必要な支援（性別）



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

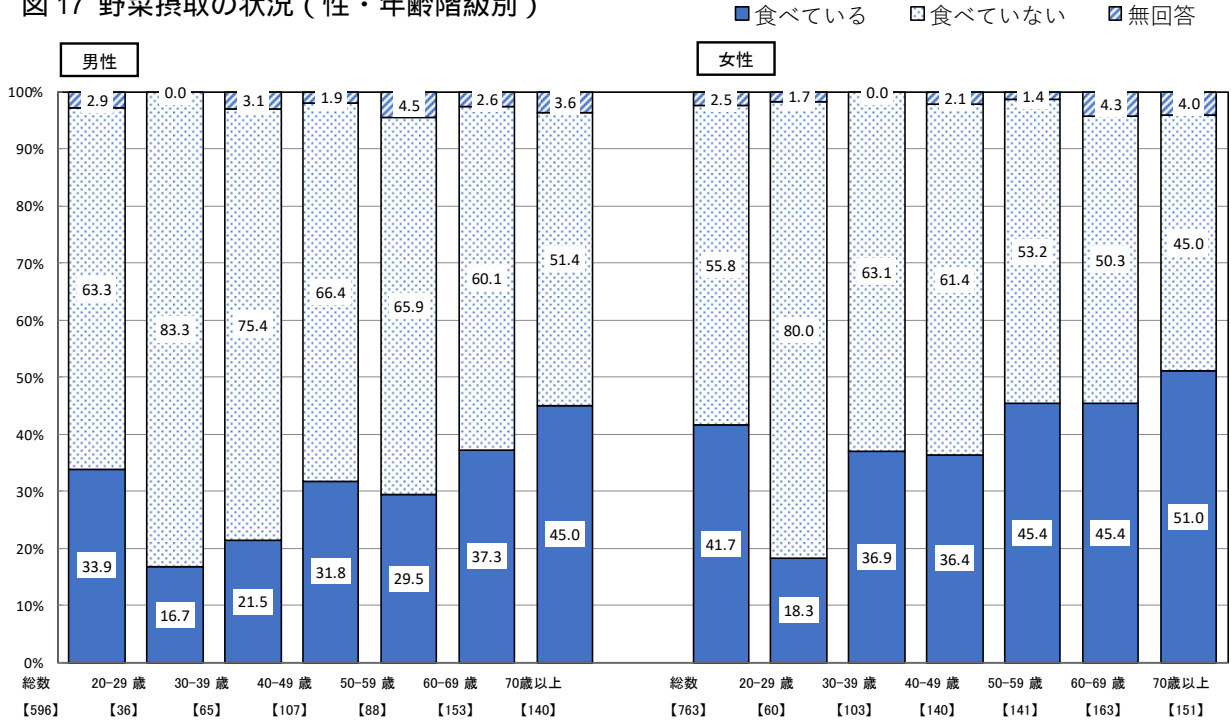
5 野菜摂取に関する状況

(1) ふだんの野菜摂取の状況

ふだんの野菜摂取の状況で、「食べている」と回答した者の割合は、男性 33.9%、女性 41.7%であった。特に 20 歳代でその割合が最も低く、男性 16.7%、女性 18.3%であった。（図 17）

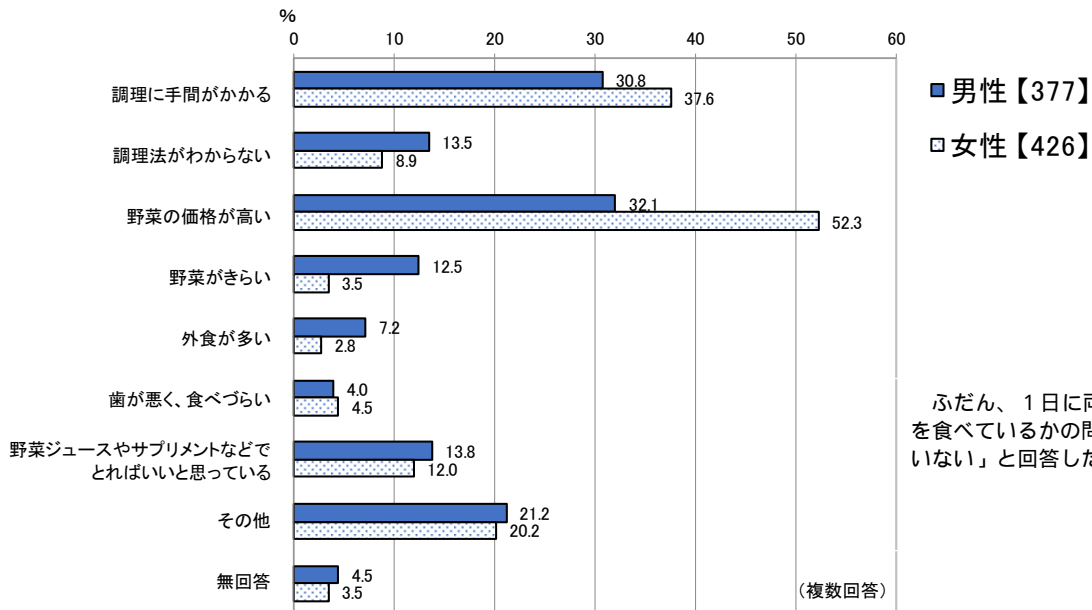
また、野菜を食べない理由は、男女ともに「野菜の価格が高い」と回答した者の割合が最も高く、男性 32.1%、女性 52.3%であった。次いで「調理に手間がかかる」と回答した者の割合が男女ともに高かった。（図 18）

図 17 野菜摂取の状況（性・年齢階級別）



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 18 野菜を食べない理由（性別）



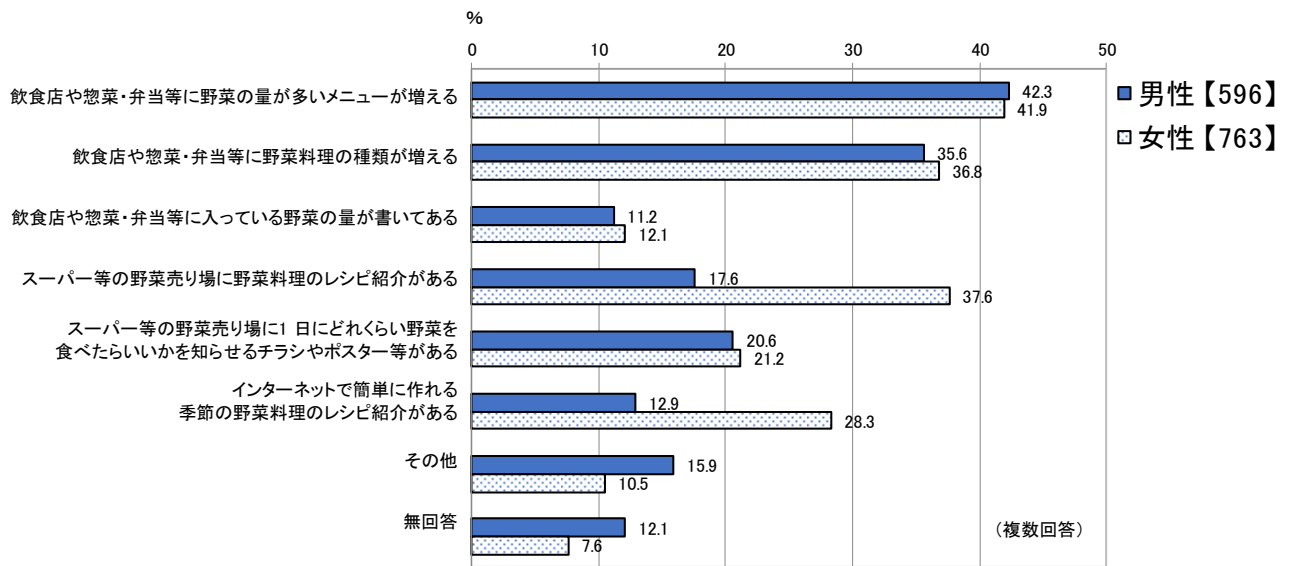
ふだん、1日に両手いっぱい野菜を食べているかの問いに対し、「食べていない」と回答した者が回答

※総数に年齢無回答男性5人、女性2人含む

(2) 野菜をたくさん食べるために、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、飲食店、インターネット等に期待すること

野菜をたくさん食べるために、スーパーマーケット等に期待することは、男女ともに「飲食店や惣菜・弁当等に野菜の量が多いメニューが増える」と回答した者の割合が最も高く、男性 42.3%、女性 41.9%であった。
 また、男女の差が大きかったのは、「スーパーマーケット等の野菜売り場に野菜料理のレシピ紹介がある」で、男性 17.6%に対し、女性は 37.6%であった。(図 19)

図 19 野菜をたくさん食べるためにスーパー等に期待すること(性別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

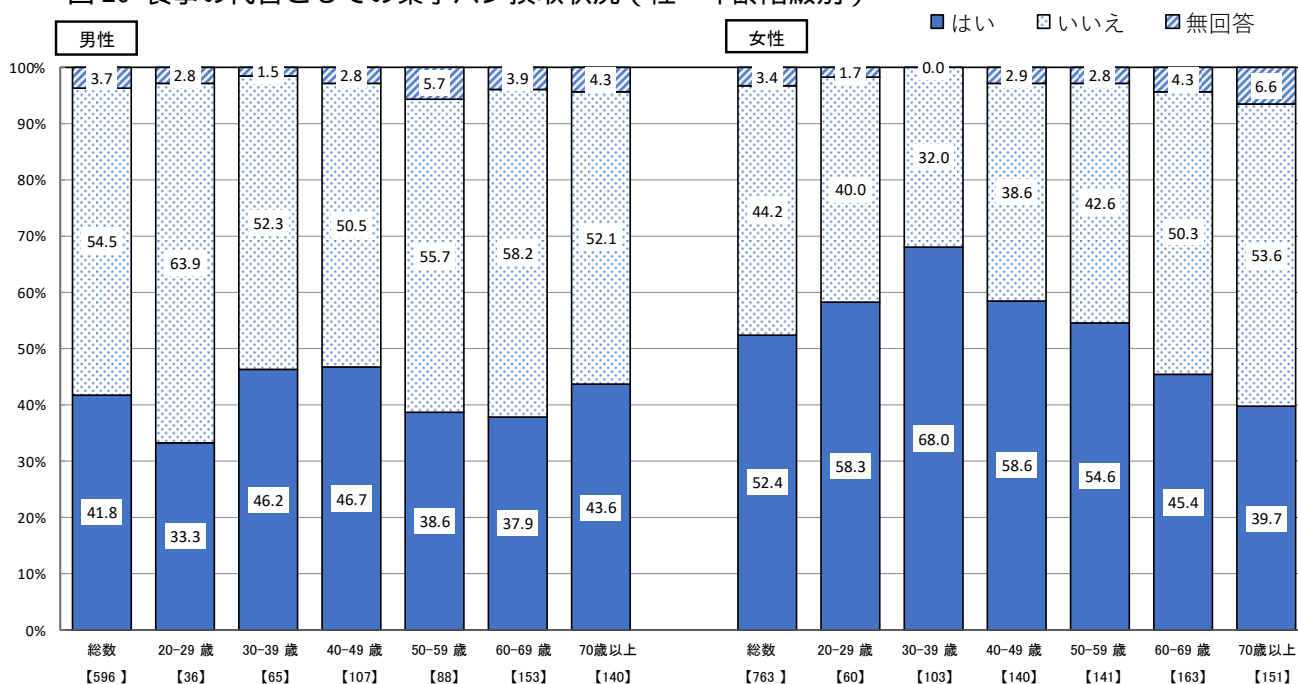
6 その他の食生活習慣に関する状況

(1) 菓子パンの摂取状況

食事の代わりに菓子パンを摂取する者の割合は、男性 41.8%、女性 52.4%であった。年代別でその割合が最も高かったのは、男性は 40 歳代で 46.7%、女性は 30 歳代で 68.0%であった。
(図 20)

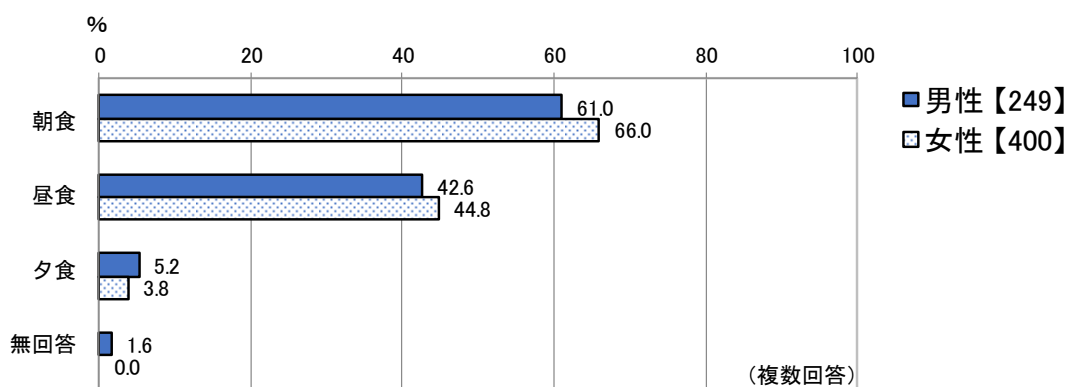
また、どの食事の代わりに摂取するかは「朝食」と回答した者の割合が最も高く、男性 61.0%、女性 66.0%であった。(図 21)

図 20 食事の代替としての菓子パン摂取状況（性・年齢階級別）



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 21 菓子パンで代替する食事（性別）



※総数に年齢無回答男性4人、女性2人含む

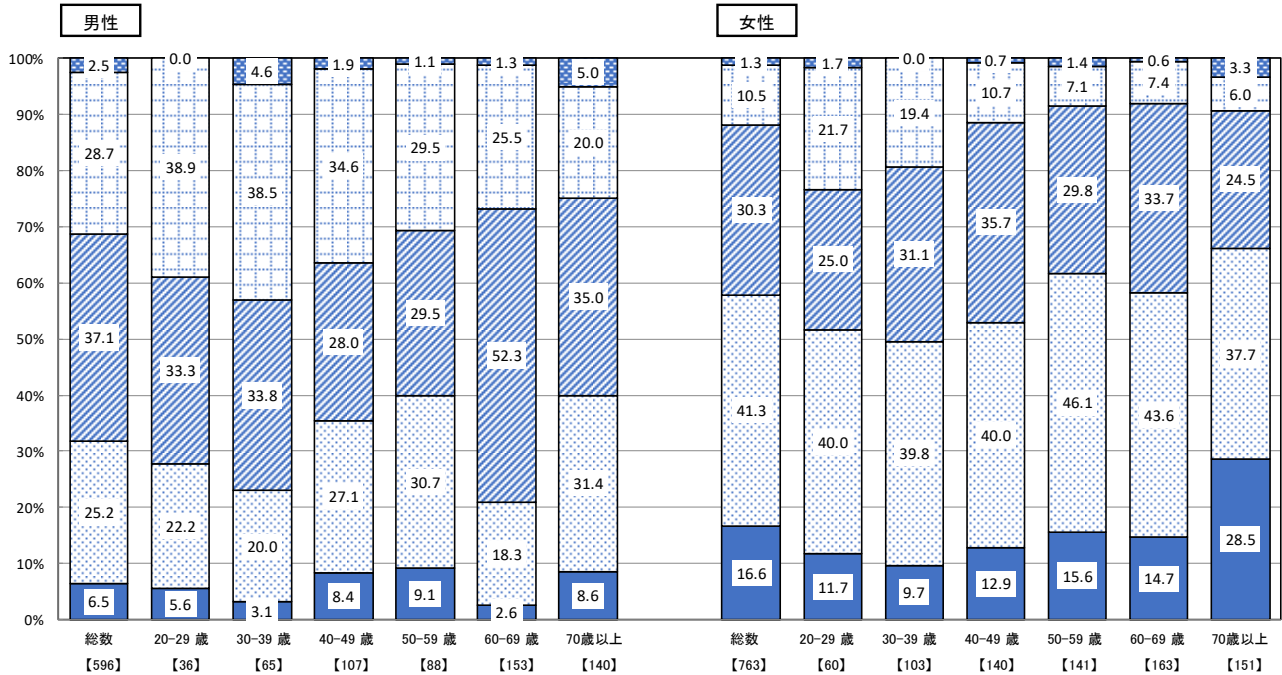
食事の代わりに菓子パンを食べることがありますかの問いに対し、「はい」と回答した者が回答

(2) 食品購入時の栄養成分表示参考状況

食品を購入するときに栄養成分表示を「いつも参考にしている」、「時々参考にしている」と回答した者の割合は、男性31.7%、女性57.9%であった。また、年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに70歳以上で男性40.0%、女性66.2%であった。
(図22)

図22 食品を購入時の栄養成分表示参考状況(性・年齢階級別)

■いつも参考にしている □時々参考にしている ▨あまり参考にしていない □まったく参考にしていない ■無回答



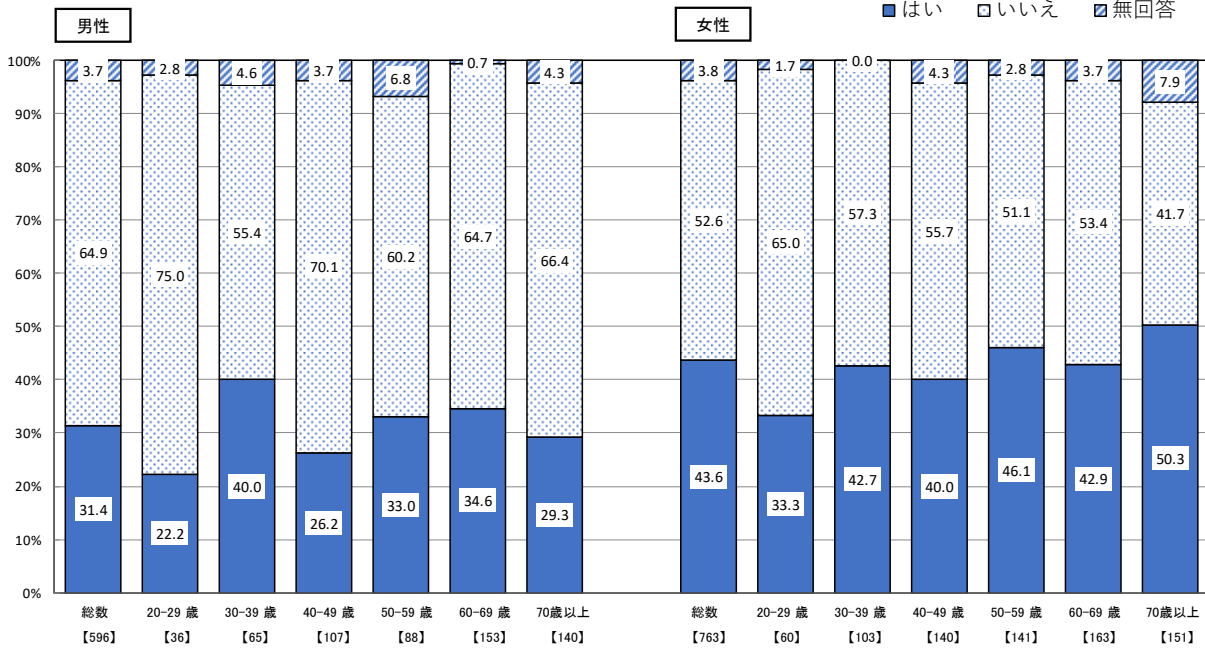
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

(3) 健康食品の摂取状況

サプリメント等、健康食品を摂取している者の割合は男性 31.4%、女性 43.6%であった。また、年代別では摂取の割合が最も高かったのは、男性は 30 歳代で 40.0%、女性は 70 歳以上で 50.3%であった。(図 23)

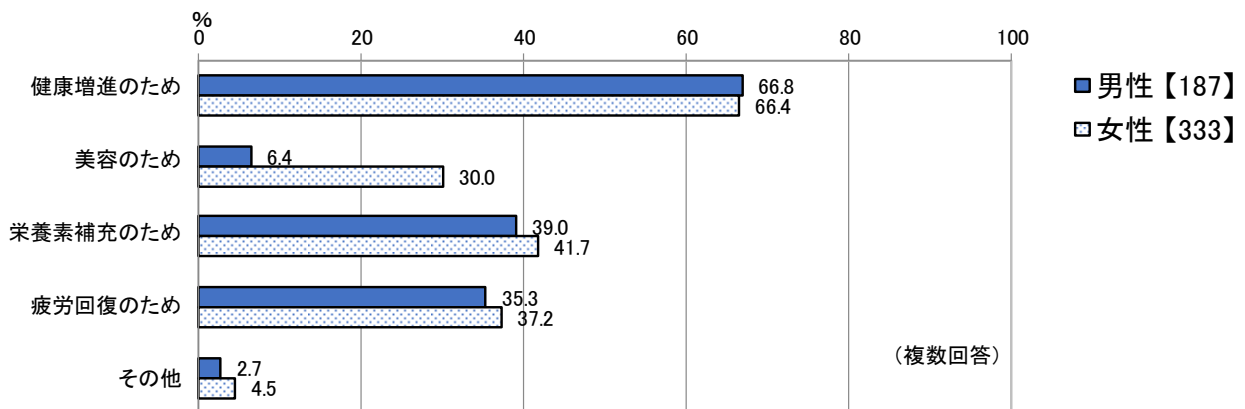
どのような目的で摂取しているかについては、「健康増進のため」と回答した者の割合が最も高く、男性 66.8%、女性 66.4%であった。(図 24)

図 23 サプリメント等、健康食品の摂取状況（性・年齢階級別）



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 24 サプリメント等、健康食品の摂取目的（性別）



※総数に年齢無回答男性2人、女性2人含む

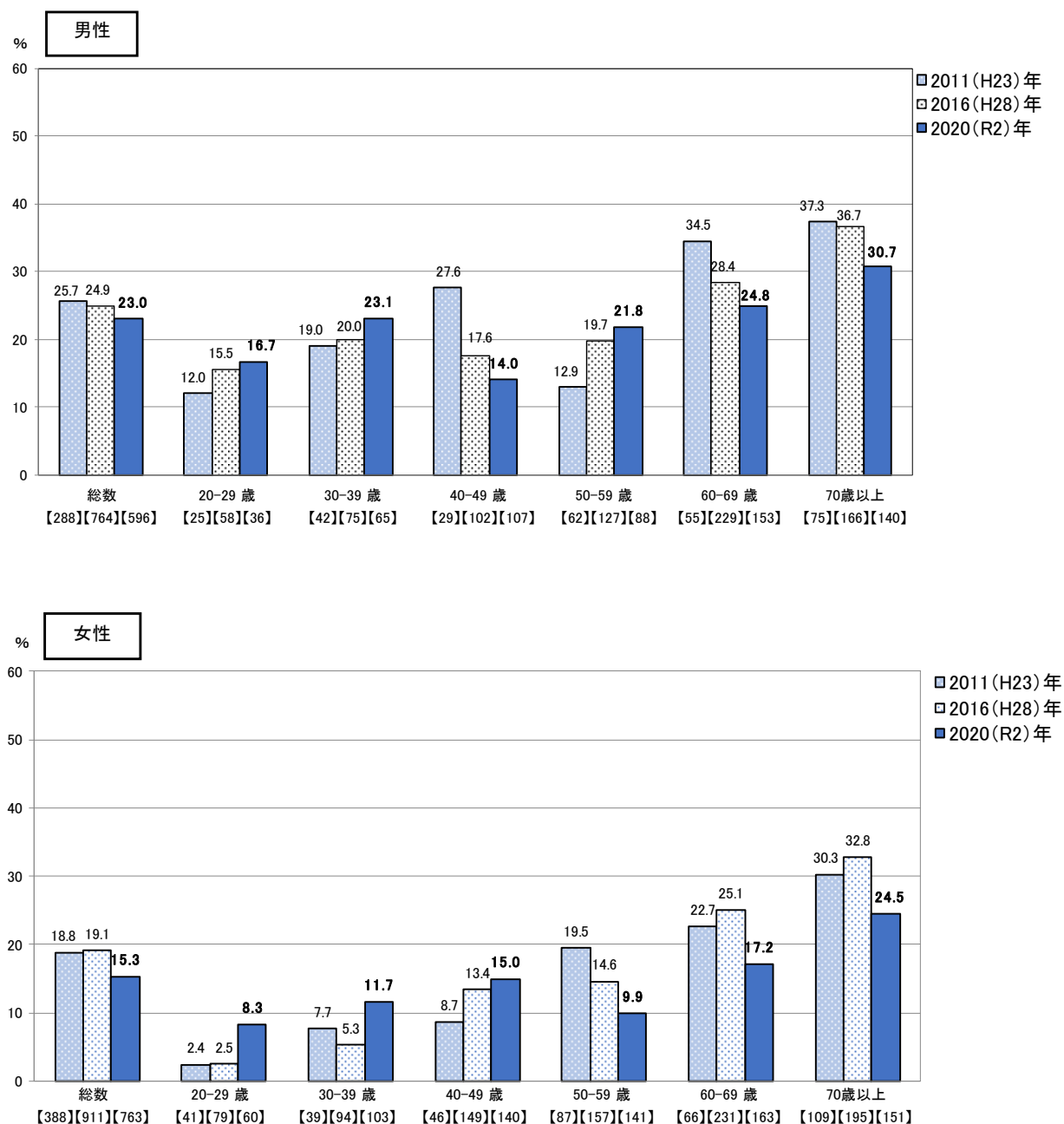
サプリメントのような健康食品（健康の維持、増進に役立つといわれる成分を含む、錠剤、カプセル、粉末状、液状等に加工された食品）を食べたり、飲んだりしていますかの問いに対し、「はい」と回答した者が回答

7 運動習慣・身体活動の実施状況及び意識

(1) 運動習慣者の状況

運動習慣のある者の割合は、男性 23.0%、女性 15.3%であり、男女とも 2016 (H28) 年と比較すると減少した。年代別では運動習慣のある者の割合が最も高かったのは男女ともに 70 歳以上で男性 30.7%、女性 24.5%であった。また、男女ともに、20～30 歳代で運動習慣者の割合が増加したが、60 歳代以上では減少した。(図 25)

図 25 「運動習慣のある者」(国定義)の状況(性・年齢階級別)



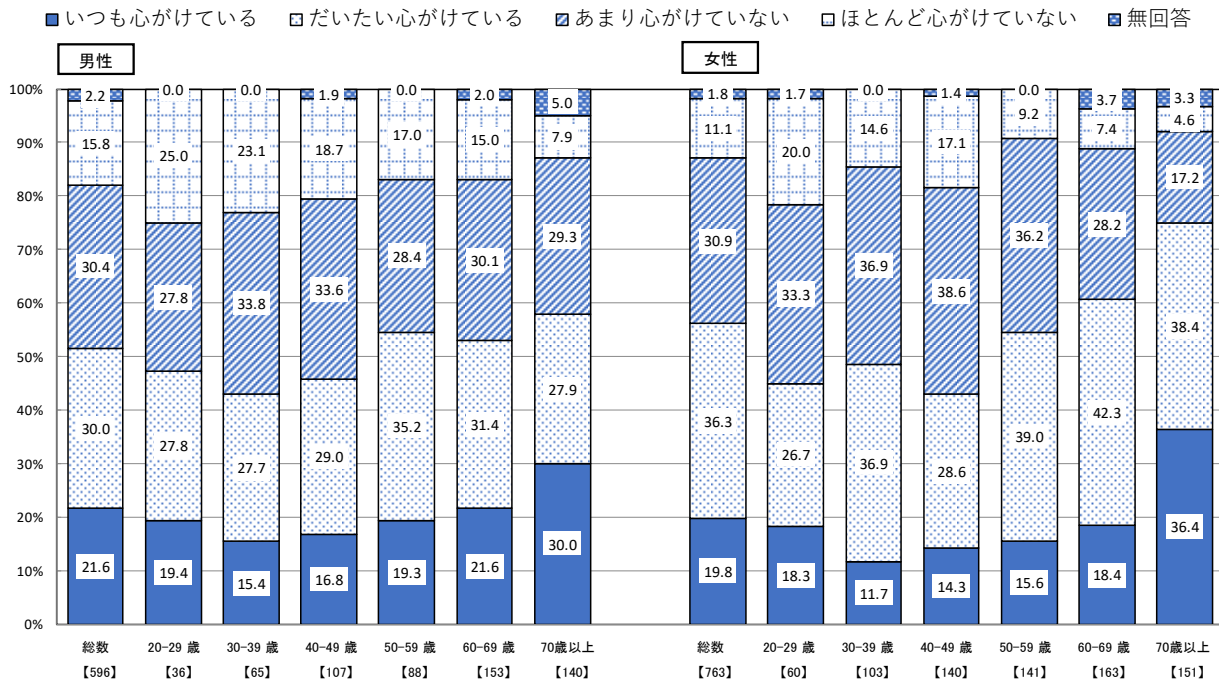
「運動習慣のある者」(国定義)：1 回 30 分以上の運動を週 2 日以上実施し、1 年以上継続している者

(2) 運動以外で体を動かすように心がけている者の状況

運動以外で体を動かすよう「いつも心がけている」、「だいたい心がけている」と回答した者の割合は男性51.6%、女性56.1%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは男女ともに70歳以上で、男性57.9%、女性74.8%であった。(図26)

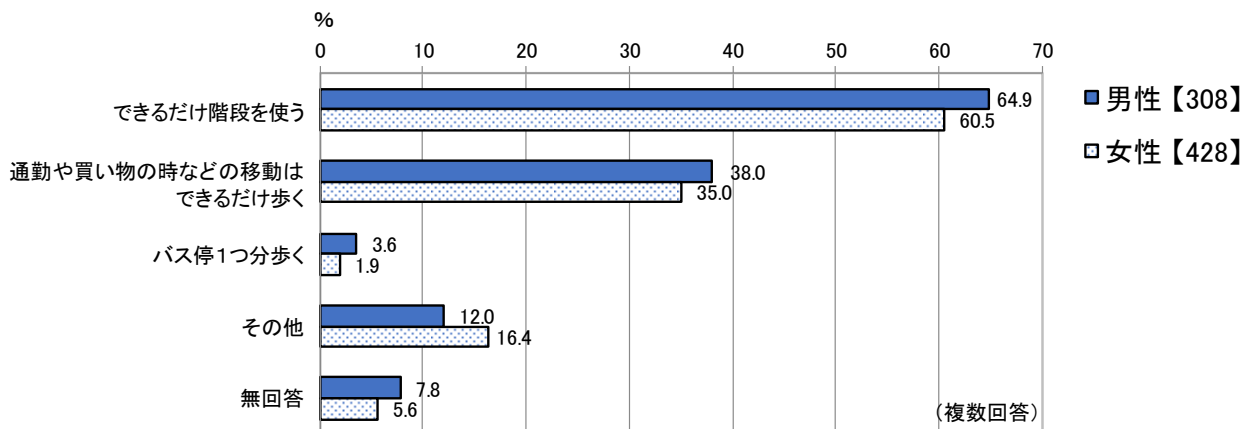
また、心がけている内容は、男女ともに「できるだけ階段を使う」と回答した者の割合が最も高く、男性64.9%、女性60.5%であった。(図27)

図26 運動以外で体を動かすように心がけている者の割合(性・年齢階級別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図27 運動以外で体を動かすように心がけている内容(性別)



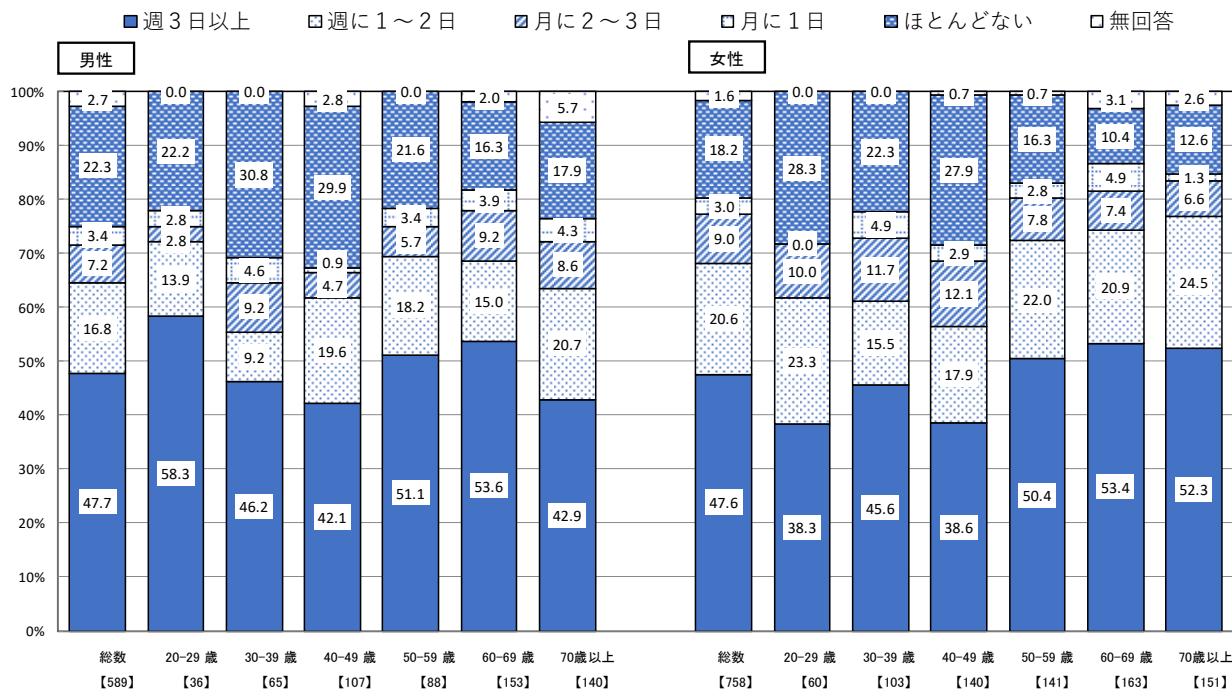
※総数に年齢無回答男性4人、女性2人含む

普段から運動以外の仕事や家事で、歩くように心がけていますかの問いに対し、「いつも心がけている」「だいたい心がけている」と回答した者が回答

(3) 運動以外で約10分(約1km)以上の歩行頻度

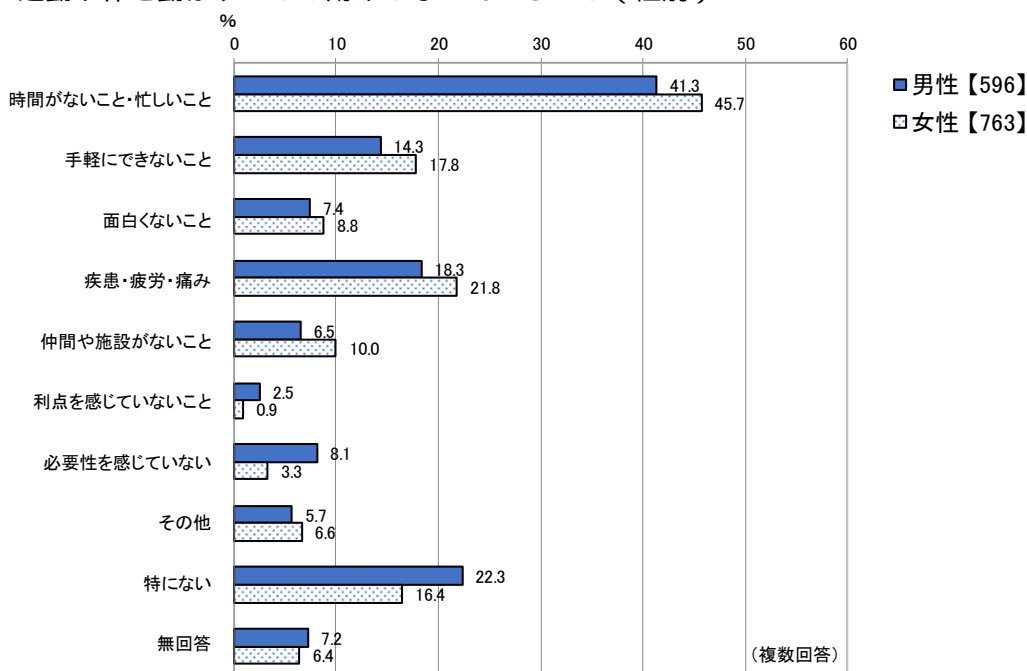
約10分(約1km)以上の歩行頻度は「週に3日以上」と回答した者の割合は男性47.7%、女性47.6%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は20歳代で58.3%、女性は60歳代で53.4%であった。(図28)
 また、運動や体を動かすことの妨げとなっていることは、男女ともに「時間がないこと・忙しいこと」と回答した者の割合が最も高く、男性41.3%、女性45.7%であった。(図29)

図28 運動以外の仕事や家事で、約10分(約1km)以上の歩行頻度
 (性・年齢階級別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図29 運動や体を動かすことの妨げとなっていること(性別)



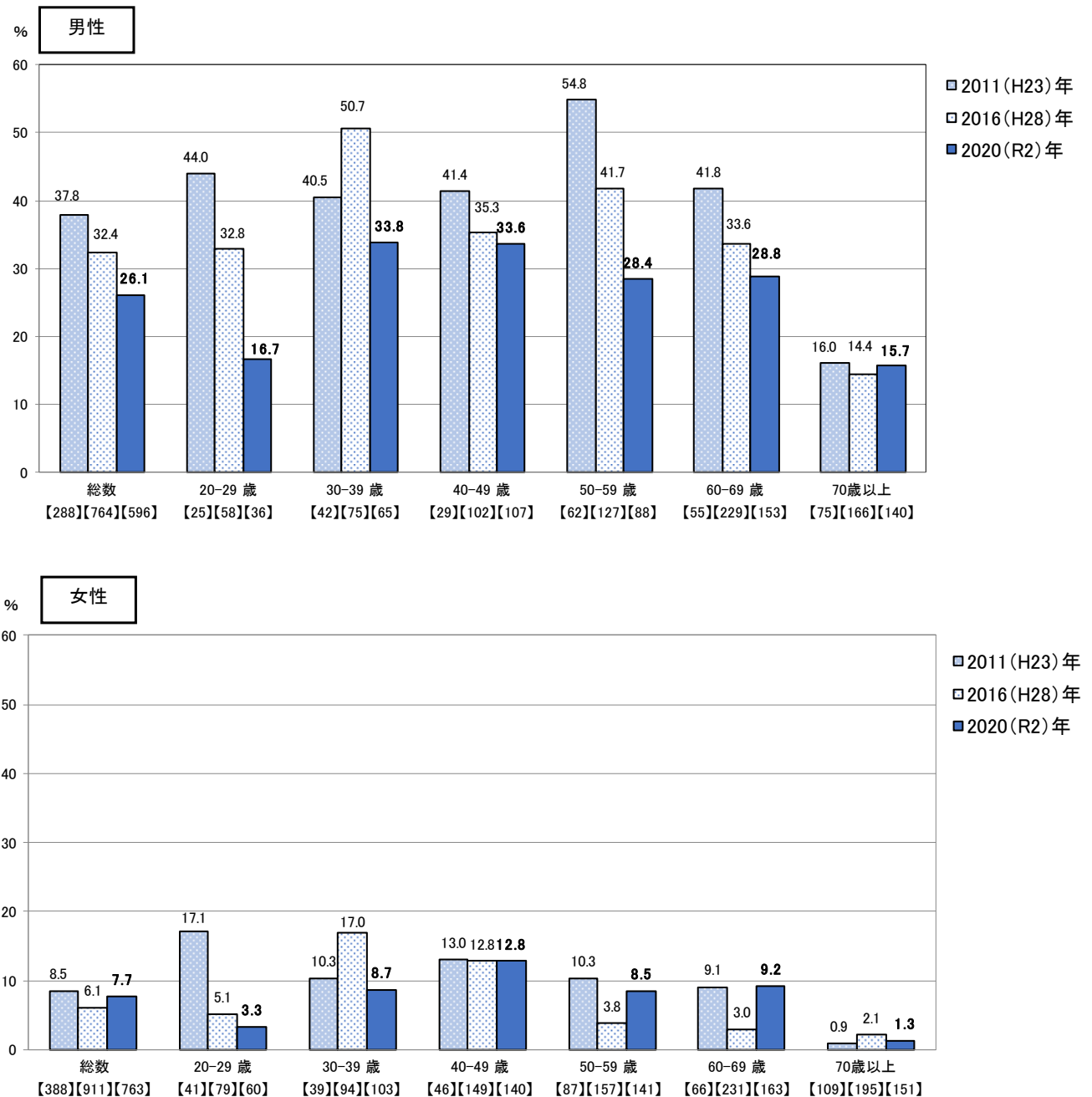
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

8 喫煙及び受動喫煙の状況・禁煙治療医療機関の認知度

(1) 喫煙の状況

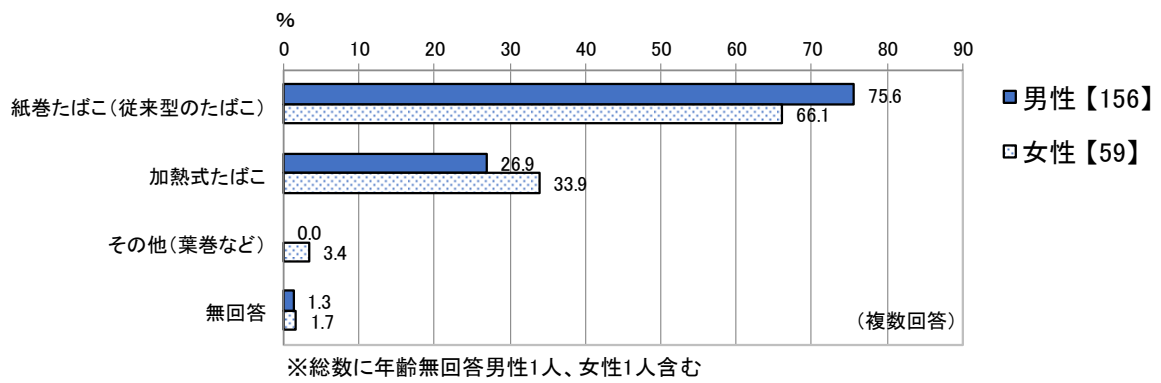
現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性 26.1%、女性 7.7%であった。
 2016（H28）年と比較すると、男性の喫煙者は減少したが、女性は増加した。（図 30）
 また、現在習慣的に喫煙している者のうち、紙巻たばこ（従来型のたばこ）を吸っている者の割合は、男性 75.6%、女性 66.1%、加熱式たばこを吸っている者の割合は男性 26.9%、女性 33.9%であった。（図 31）

図 30 現在習慣的に喫煙している者の割合（性・年齢階級別）



現在習慣的に喫煙している者：現在、あなたはたばこを吸っていますかの問いに対し、「毎日吸う」「ときどき吸っている」と回答した者

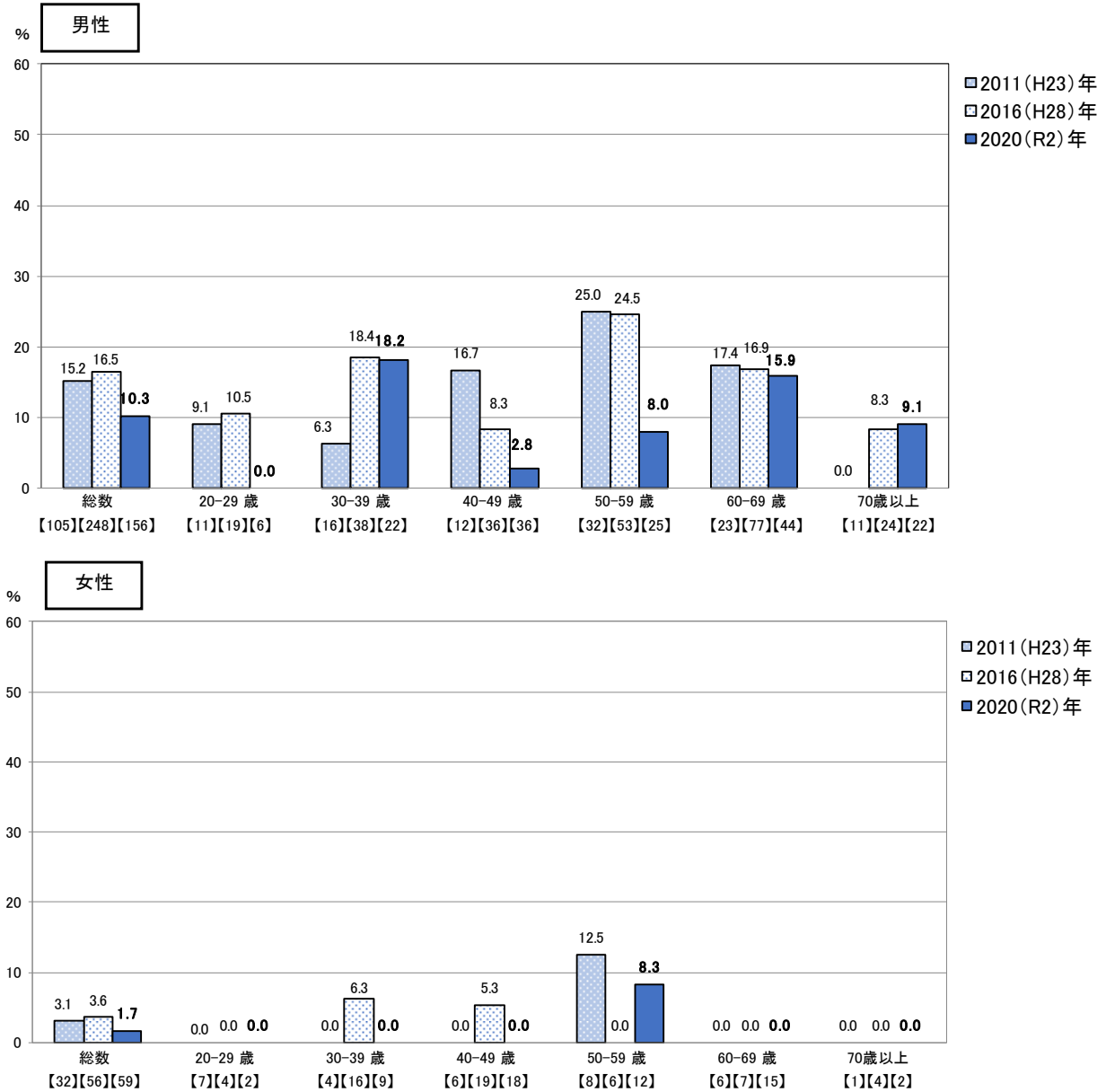
図 31 現在習慣的に喫煙している者が吸っているたばこ製品の種類（性別）



(2) 喫煙本数の状況

現在、紙巻たばこ（従来型のたばこ）を習慣的に喫煙している者で、1日に21本以上吸う者の割合は、男性10.3%、女性1.7%であった。（図32）
 また、1日の平均喫煙本数は、男性17.0本、女性11.6本で、2016（H28）年と比較して、男性が2.9本、女性が1.0本減少した。（ 2）

図32 現在、紙巻たばこ（従来型のたばこ）を習慣的に喫煙している者における1日に21本以上吸う者の割合（性・年齢階級別）



1 喫煙本数：標準的なたばこ1箱の単位が20本のため、2箱以上（21本以上）に設定した

2 現在、紙巻たばこ（従来型のたばこ）を習慣的に喫煙している者における1日の平均喫煙本数（性別）

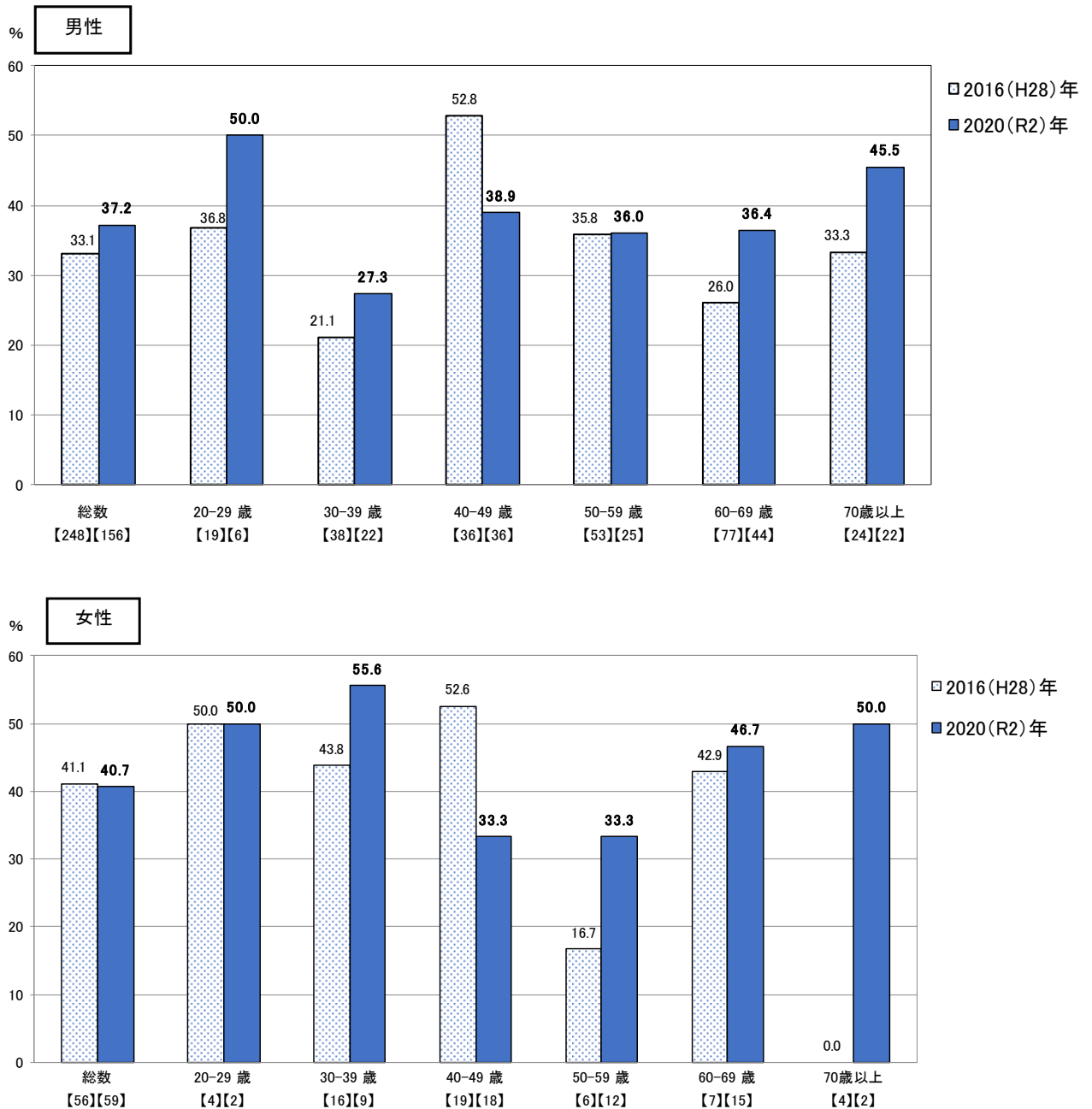
(本)

	2011 (H23) 年	2016 (H28) 年	2020 (R2) 年
総数	16.3	17.5	15.6
男性	18.0	19.9	17.0
女性	10.9	12.6	11.6

(3) 禁煙の意思 (禁煙希望の有無)

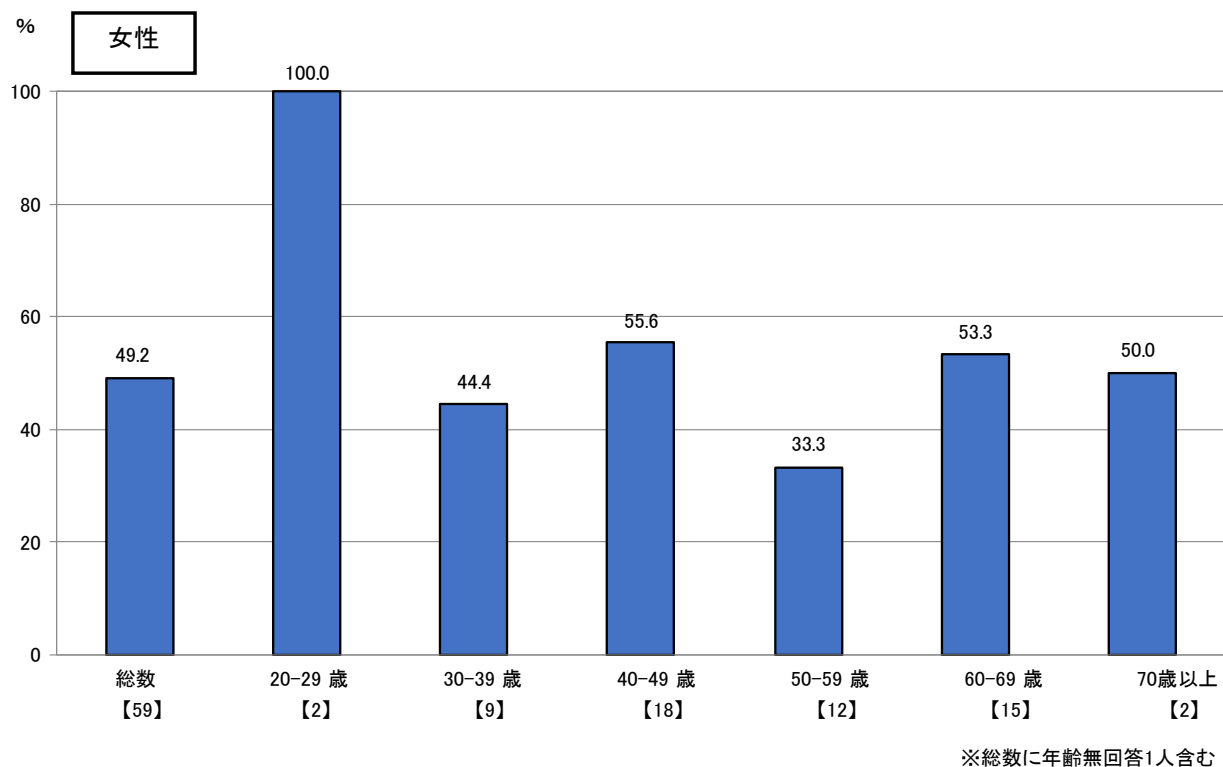
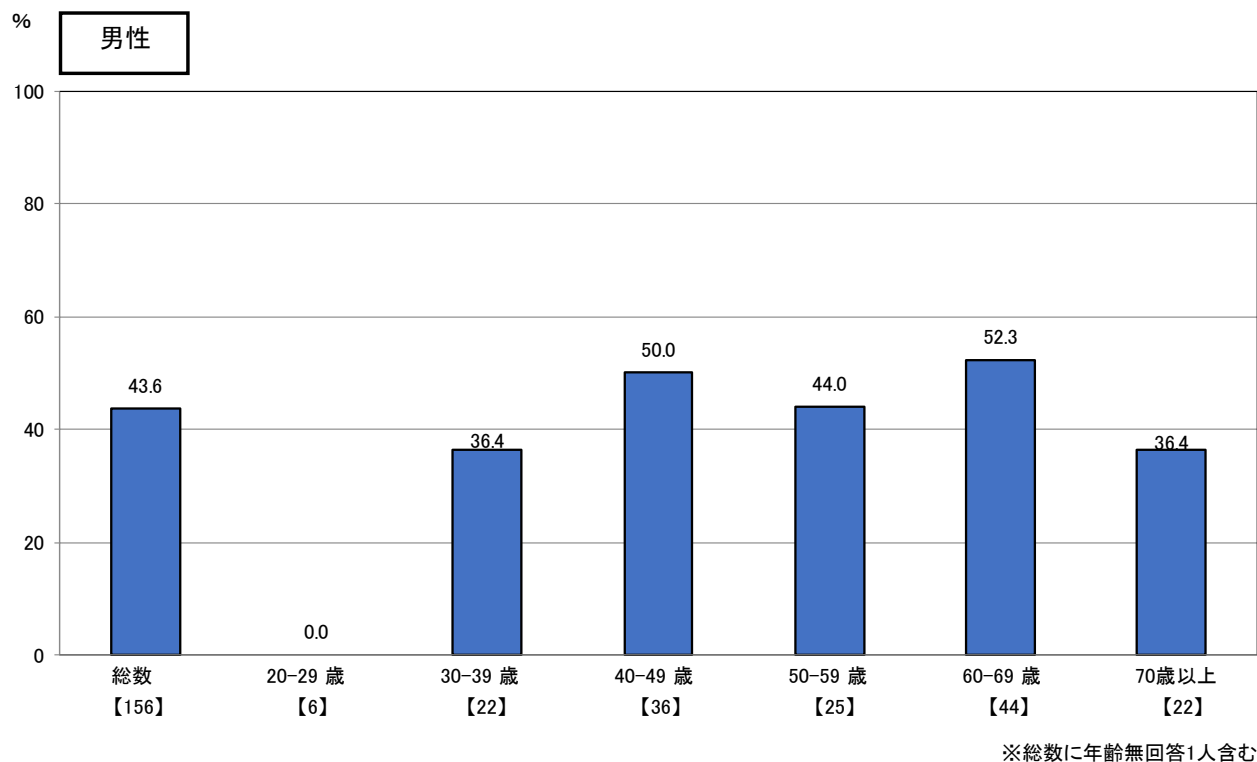
たばこをやめたい者の割合は、男性 37.2%、女性 40.7%であった。年代別でその割合が最も高かったのは、男性は 20 歳代で 50.0%、女性は 30 歳代で 55.6%であった。(図 33)
 また、禁煙治療が受けられる医療機関が身近にあると回答した者の割合は男性 43.6%、女性 49.2%であった。(図 34)

図 33 喫煙者における禁煙の意思
 (性・年齢階級別)



たばこをやめたい者：「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」者のうち、たばこをやめたいと回答した者

図 34 禁煙治療が受けられる医療機関が身近にある者の状況（性・年齢階級別）

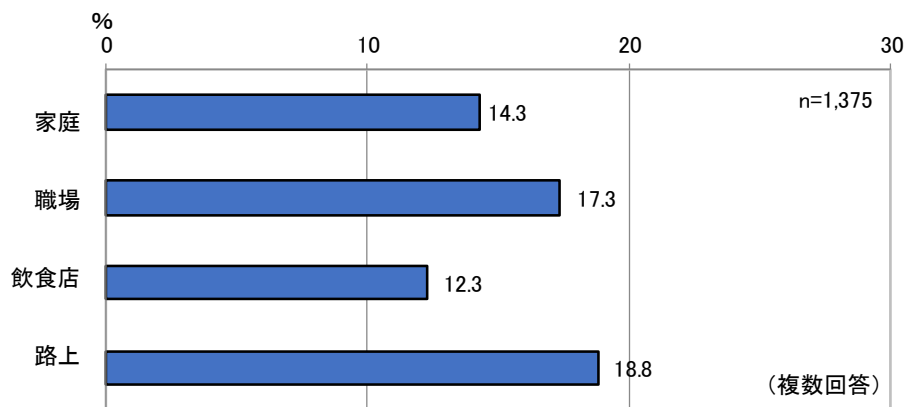


たばこをやめたい者：「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」者のうち、たばこをやめたいと回答した者

(4) 受動喫煙の機会があった場所

受動喫煙の機会があった場所は、「路上」と回答した者の割合が最も高く、18.8%であった。次いで、「職場」が17.3%であった。(図35)

図35 受動喫煙の機会があった場所



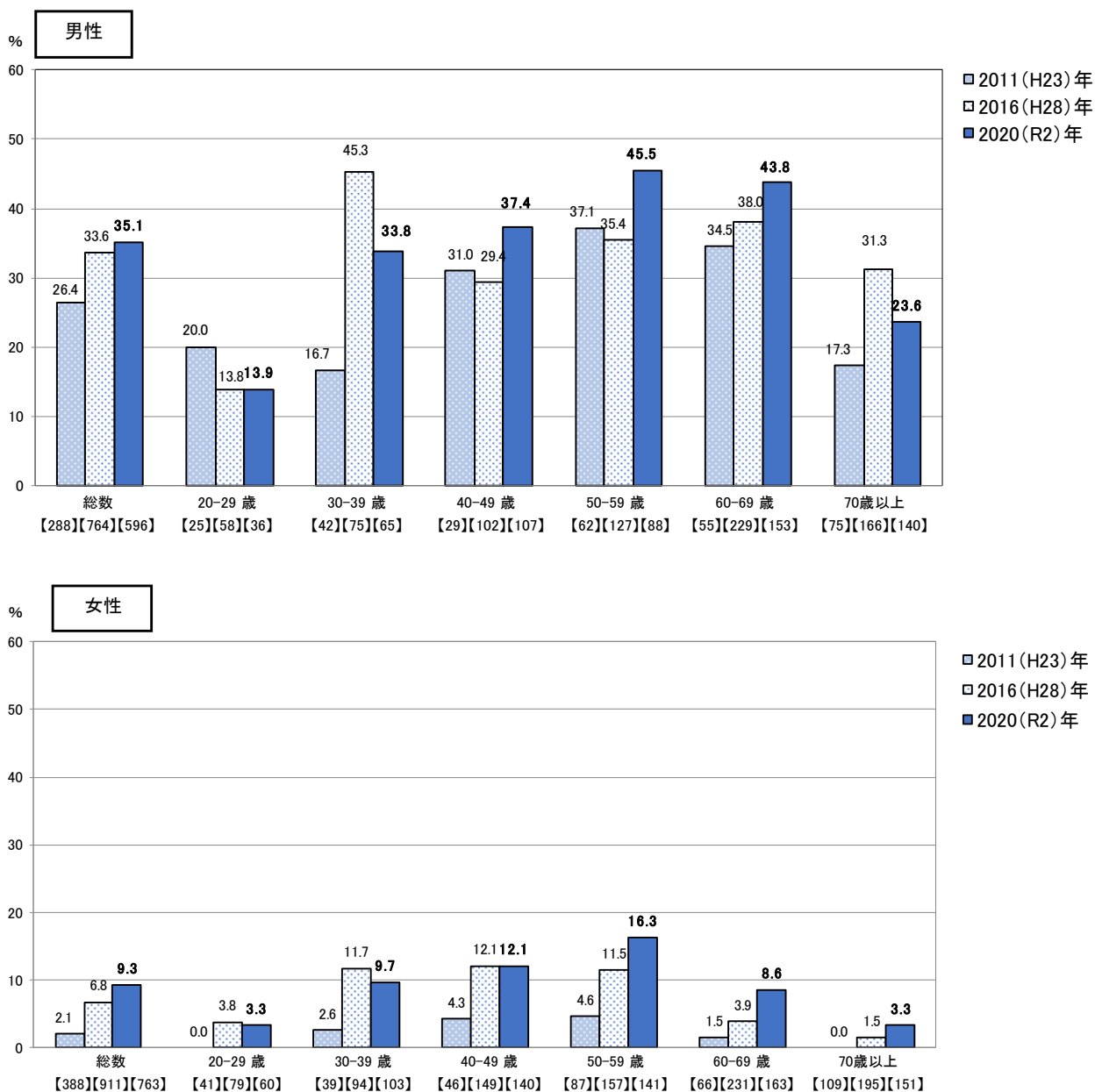
※総数に性別無回答16人含む

9 飲酒の状況

(1) 習慣的な飲酒の状況

飲酒習慣のある者の割合は、男性 35.1%、女性 9.3%であった。2016（H28）年と比較すると、男女ともに増加した。年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに 50 歳代で男性 45.5%、女性 16.3%であった。（図 36）

図 36 飲酒習慣のある者の割合（性・年齢階級別）

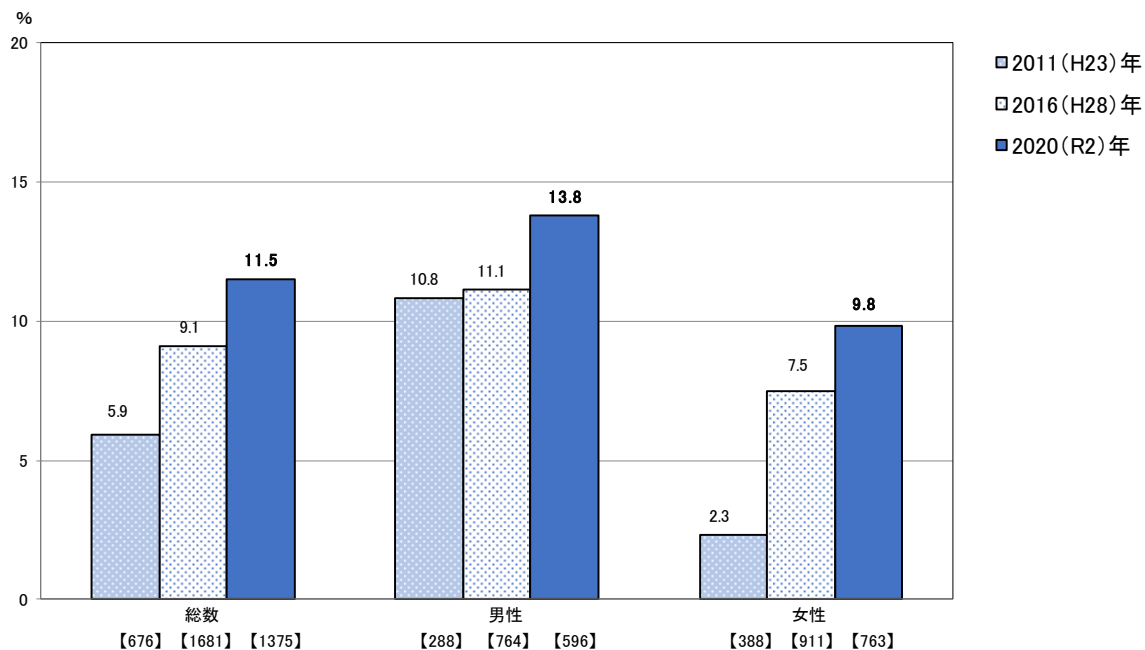


飲酒習慣のある者：週に3日以上飲酒し、飲酒日1日あたり1合以上を飲酒すると回答した者

(2) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の状況

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男性 13.8%、女性 9.8%であった。2016（H28）年と比較すると、男女ともに増加した。（図 37）

図 37 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒する者の割合（性別）



※「生活習慣病のリスクを高める量」を飲酒している者とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性で20g以上の者とし、以下の方法で算出。

①男性：「毎日×2合以上」＋「週5~6日×2合以上」＋「週3~4日×3合以上」＋「週1~2日×5合以上」
 ＋「月1~3日×5合以上」

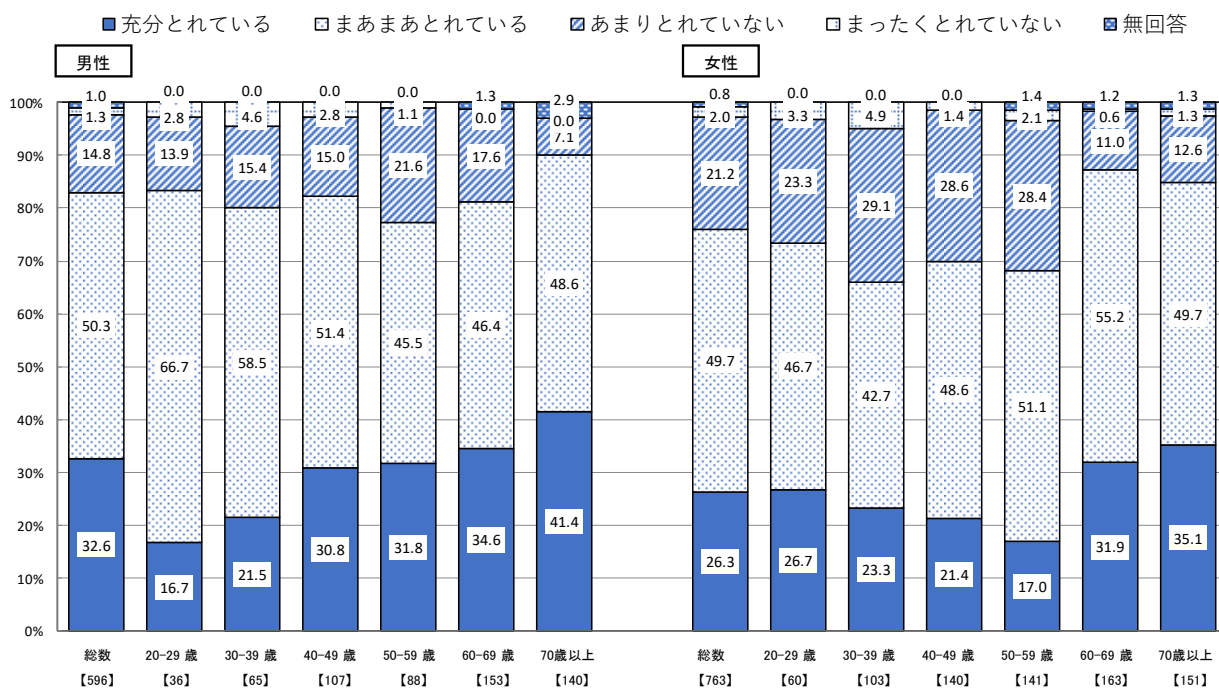
②女性：「毎日×1合以上」＋「週5~6日×1合以上」＋「週3~4日×1合以上」＋「週1~2日×3合以上」
 ＋「月1~3日×5合以上」

10 睡眠による休養の状況

睡眠による休養が「充分とれている」、「まあまあとれている」と回答した者の割合は、男性 82.9%、女性 76.0%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は70歳以上で90.0%、女性は60歳代で87.1%であった。

一方、睡眠で休養が「あまりとれていない」、「全くとれていない」と回答した者の割合は、男性 16.1%、女性 23.2%で、年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は50歳代 22.7%、女性は30歳代で34.0%であった。（図38）

図38 睡眠による休養の状況（性・年齢階級別）



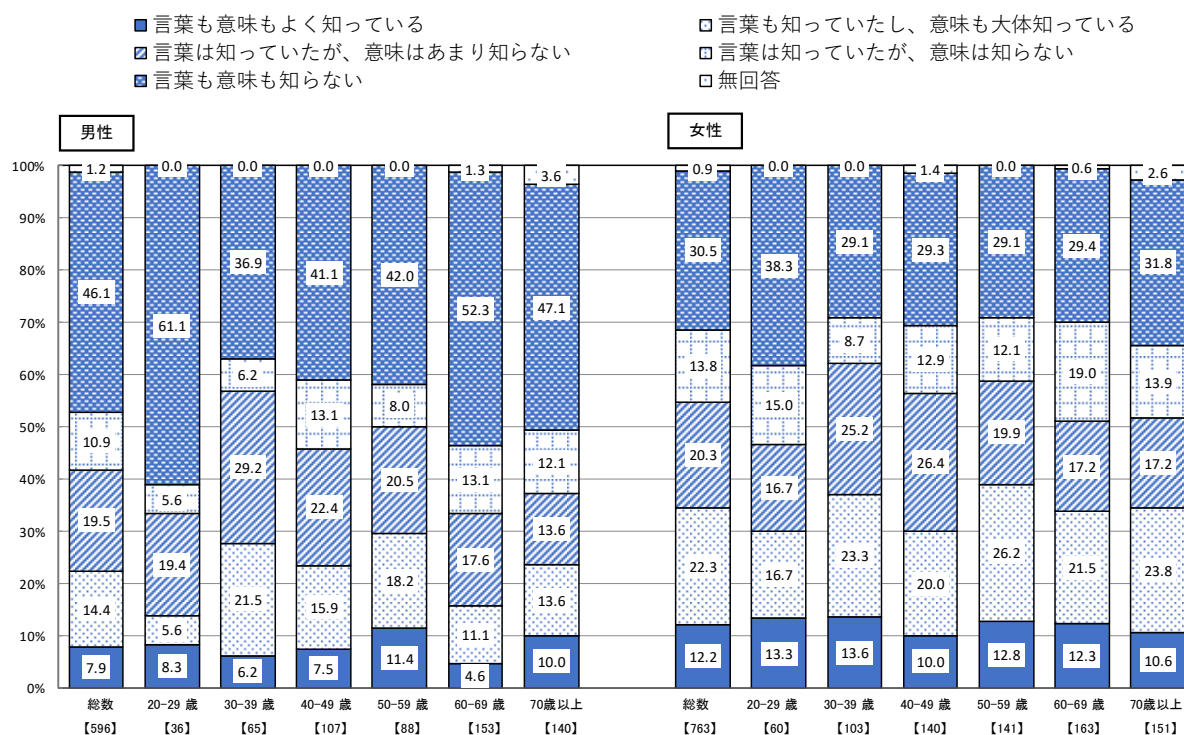
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

11 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について「言葉も意味もよく知っている」及び「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」と回答した者の割合は、男性 22.3%、女性 34.5%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに 50 歳代で男性 29.6%、女性 39.0%であった。

一方、「言葉も意味も知らない」と回答した者の割合は、男性 46.1%、女性 30.5%で、男女ともに 20 歳代でその割合が最も高く、男性 61.1%、女性 38.3%であった。（図 39）

図 39 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（性・年齢階級別）



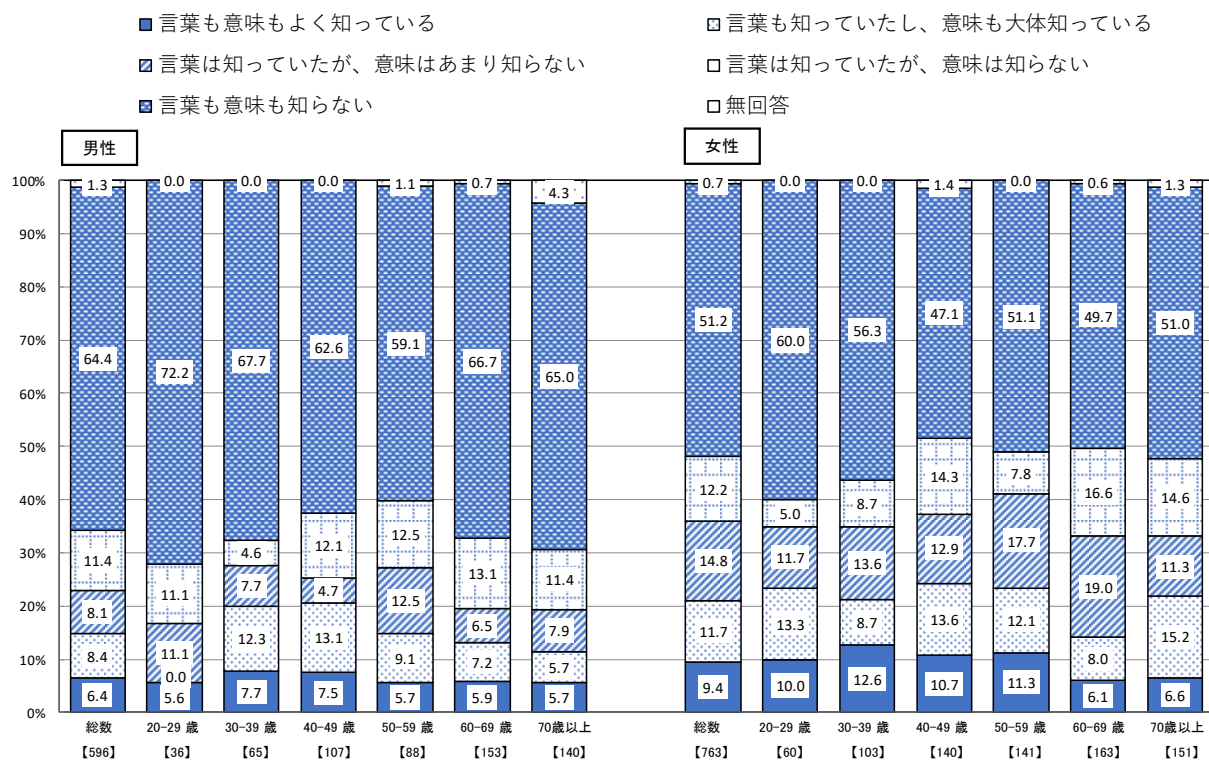
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

12 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

COPD（慢性閉塞性肺疾患）について「言葉も意味もよく知っている」及び「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」と回答した者の割合は、男性14.8%、女性21.1%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに40歳代で男性20.6%、女性24.3%であった。

一方、「言葉も意味も知らない」と回答した者の割合は、男性64.4%、女性51.2%で、男女ともに20歳代でその割合が最も高く、男性72.2%、女性60.0%であった。（図40）

図40 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（性・年齢階級別）



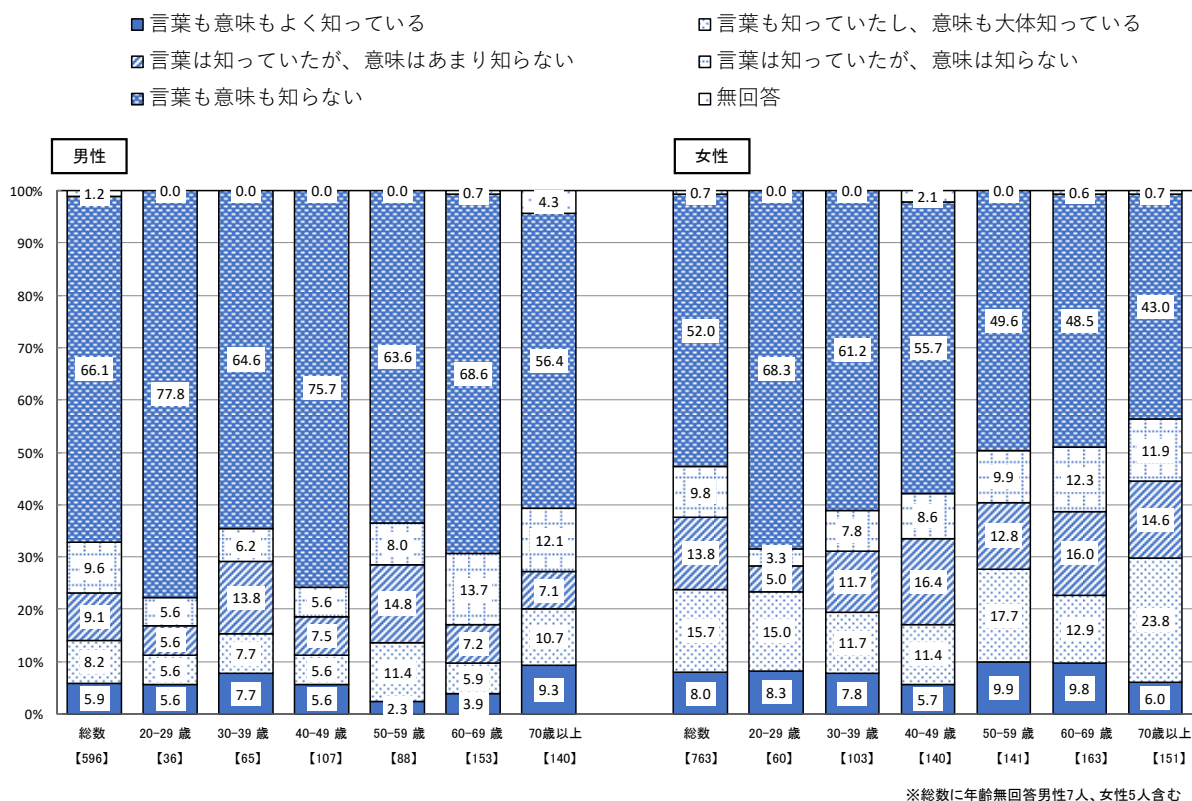
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

13 フレイル（虚弱）の認知度

フレイル（虚弱）について「言葉も意味もよく知っている」及び「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」と回答した者の割合は、男性 14.1%、女性 23.7%であった。年代別でその割合が最も高かったのは、男女ともに 70 歳代で男性 20.0%、女性 29.8%であった。

一方、「言葉も意味も知らない」と回答した者の割合は、男性 66.1%、女性 52.0%で特に 20 歳代でその割合が最も高く、男性 77.8%、女性 68.3%であった。（図 41）

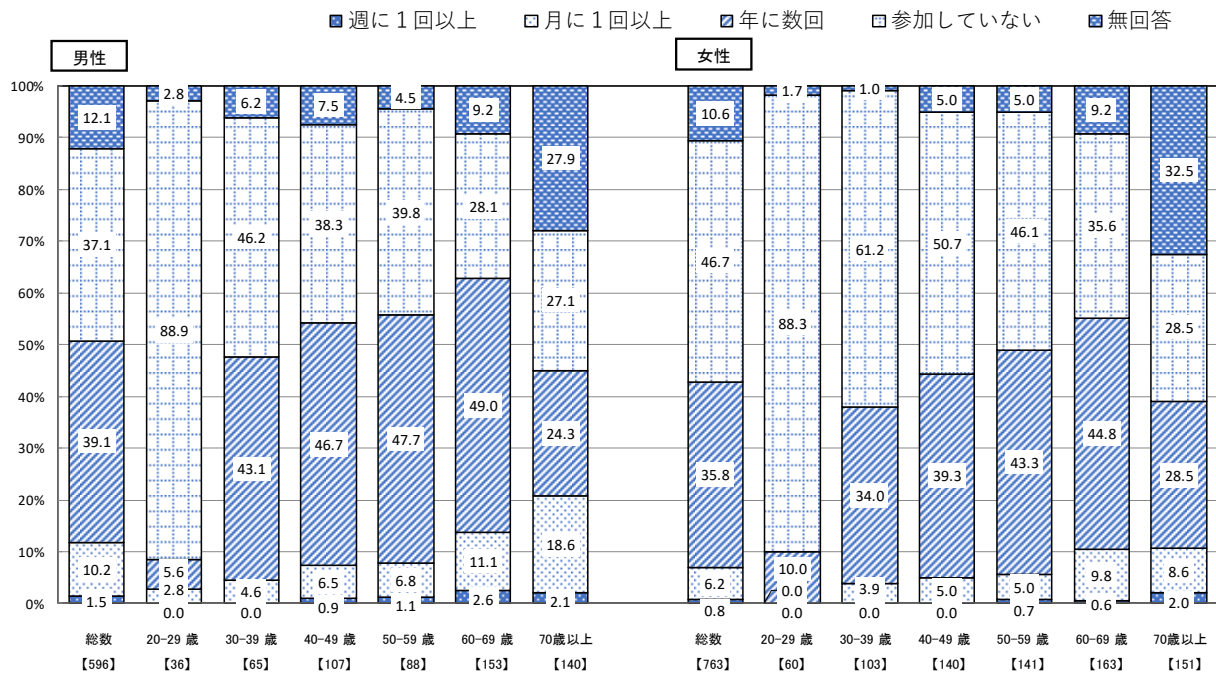
図 41 フレイル（虚弱）の認知度（性・年齢階級別）



14 地域・グループ活動への参加状況

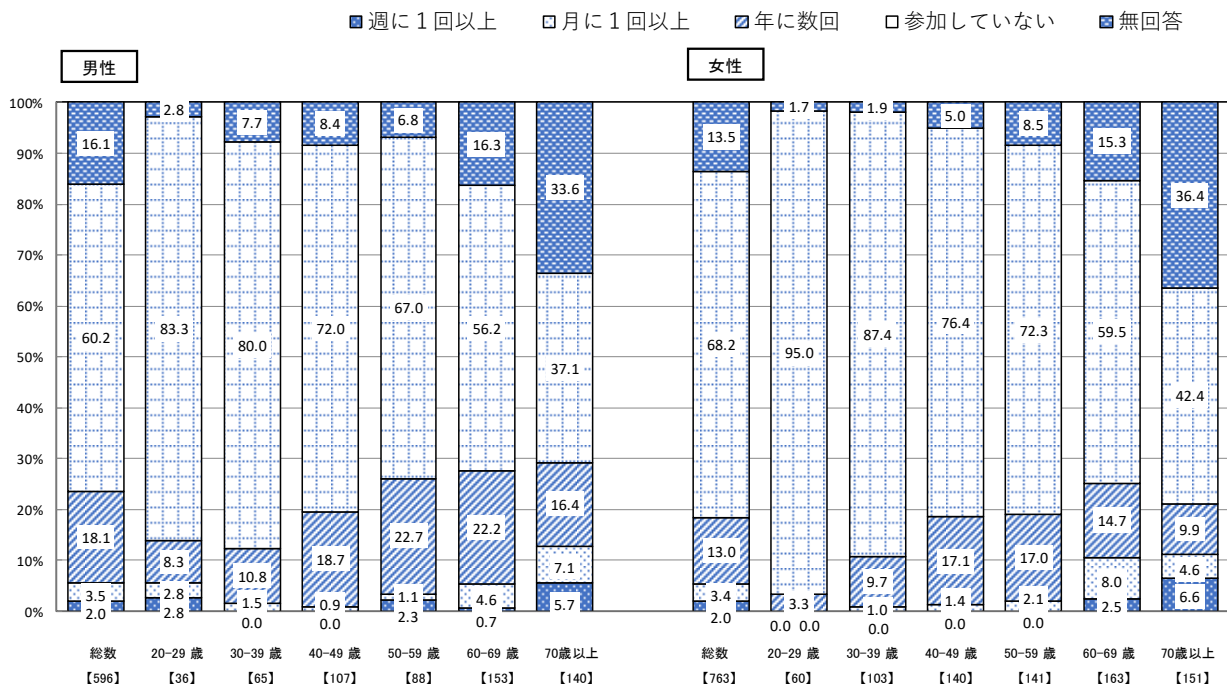
参加している地域・グループ活動は「町内会や地域行事などの活動」について「週に1回以上」「月に1回以上」「年に数回」と回答した者の割合は男性50.8%、女性42.8%であった。「ボランティア活動」について「週に1回以上」「月に1回以上」「年に数回」と回答した者の割合は男性23.6%、女性18.4%であった。「スポーツ関係のグループ活動」について「週に1回以上」「月に1回以上」「年に数回」と回答した者の割合は男性22.3%、女性16.2%であった。「趣味関係のグループ活動」について「週に1回以上」「月に1回以上」「年に数回」と回答した者の割合は男性22.4%、女性17.8%であった。「その他のグループ活動」について「週に1回以上」「月に1回以上」「年に数回」と回答した者の割合は男性13.0%、女性12.3%であった。(図42)(図43)(図44)(図45)(図46)

図42 地域・グループ活動への参加状況【町内会や地域行事】(性・年齢階級別)



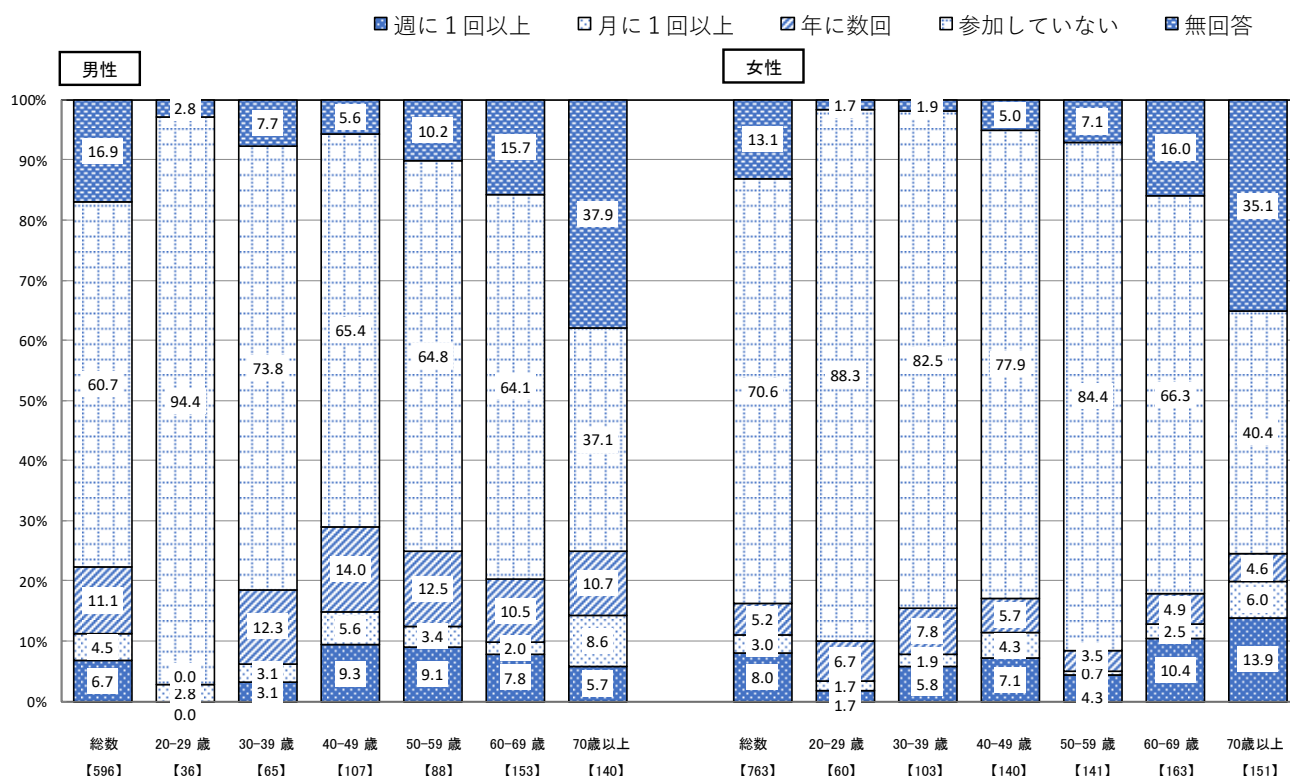
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図43 地域・グループ活動への参加状況【ボランティア活動】(性・年齢階級別)



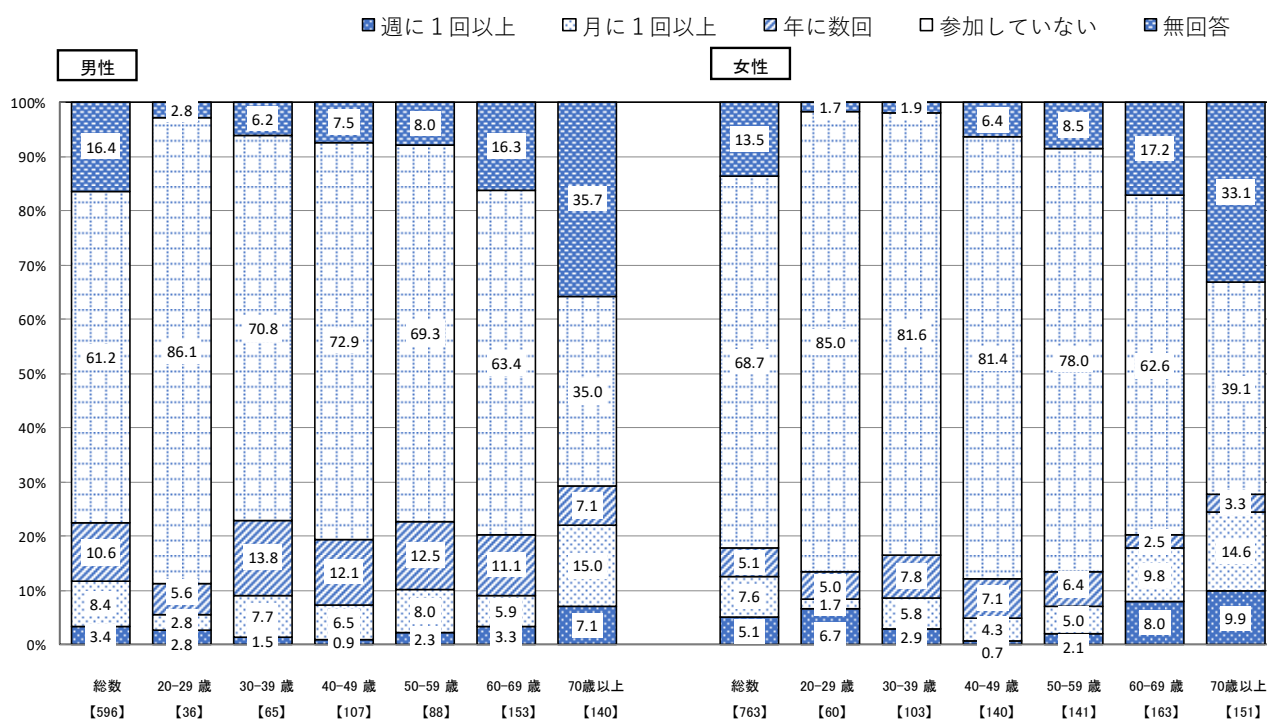
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 44 地域・グループ活動への参加状況【スポーツ関係のグループ活動】
(性・年齢階級別)



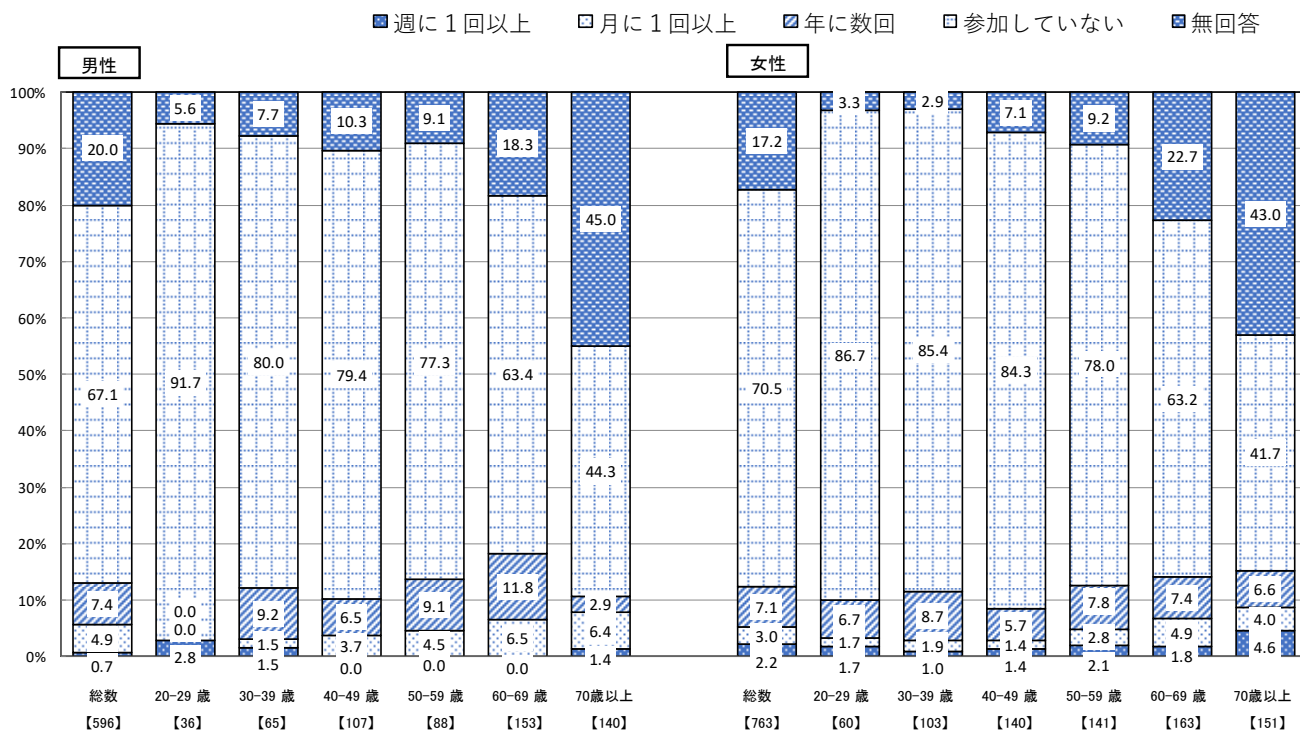
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 45 地域・グループ活動への参加状況【趣味関係のグループ活動】
(性・年齢階級別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 46 地域・グループ活動への参加状況【その他のグループ活動】
(性・年齢階級別)



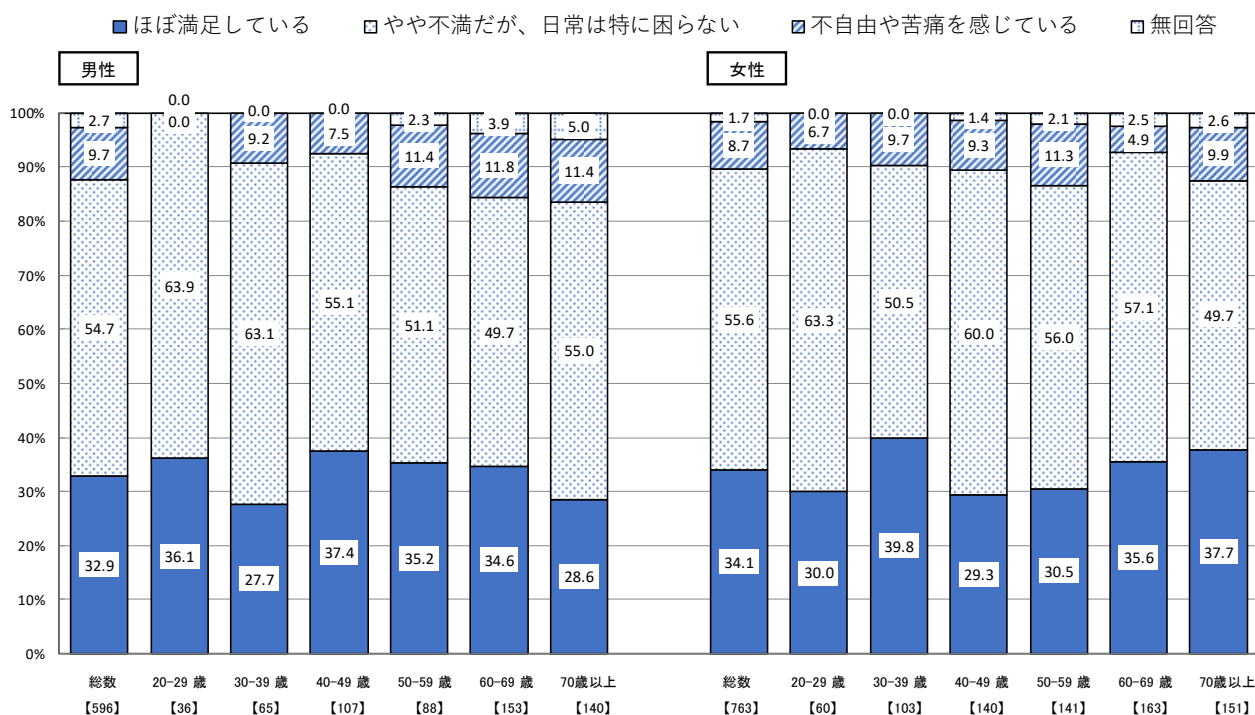
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

15 歯・口腔に関する状況

(1) 口腔の自覚症状の状況

歯や口の状態で、「ほぼ満足している」と回答した者の割合は男性 32.9 %、女性 34.1 %であった。(図 47)

図 47 口腔内の自覚症状(性・年齢階級別)



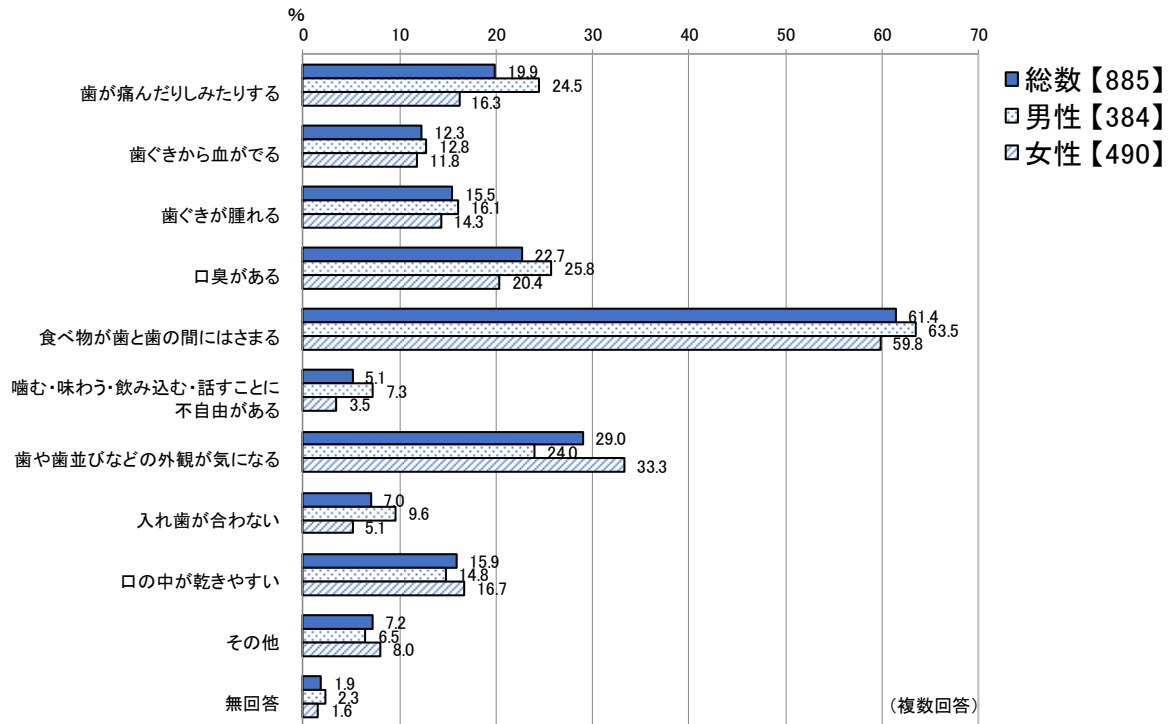
※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

(2) 口腔内で不満を感じる症状

歯や口の状況について不満、不自由や苦痛を感じている者の症状として「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者の割合が61.4%と最も高かった。次いで、「歯や歯並びなどの外観が気になる」と回答した者の割合が29.0%であった。

「食べ物が歯と歯の間にはさまる」と回答した者の割合は、男性63.5%、女性59.8%であった。(図48)

図48 口腔内で不満を感じる症状(性別)



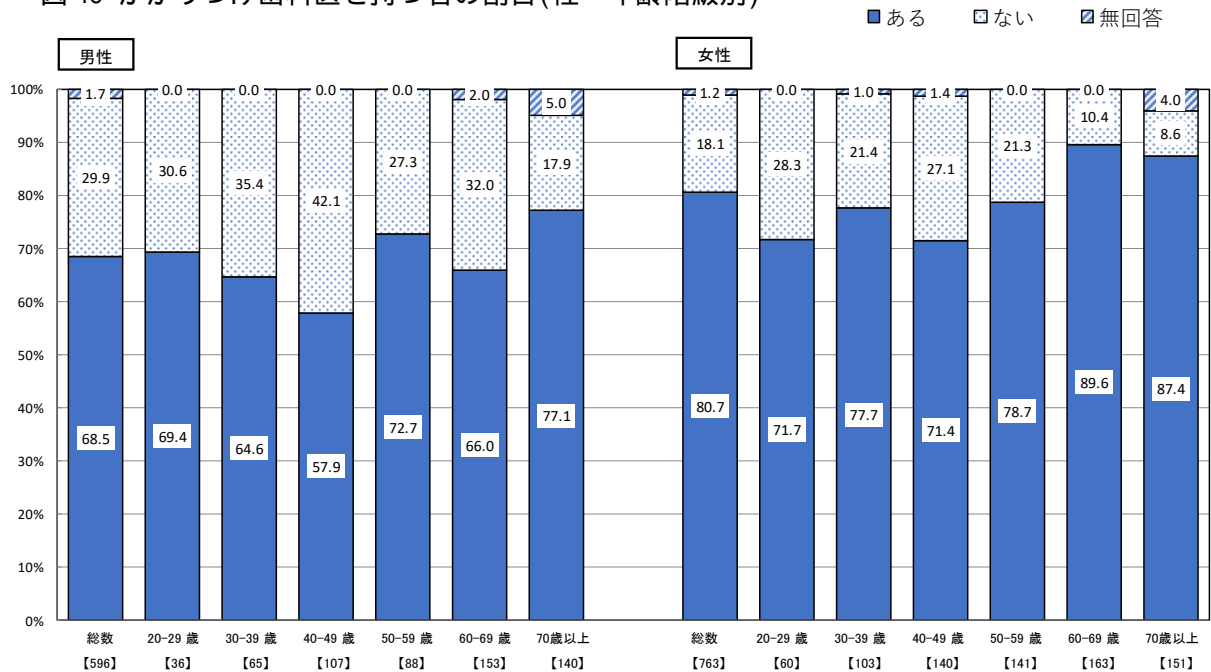
※総数に性別無回答11人含む

歯や口の状況について不満、不自由や苦痛を感じている者：あなたは歯や口の状態について、どのように感じていますかの問いに対し、「やや不満だが、日常は特に困らない」「不自由や苦痛を感じている」と回答した者

(3) 歯科医療の状況

かかりつけ歯科医を持つ者の割合は男性 68.5%、女性 80.7%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は 70 歳以上で、男性 77.1%、女性は 60 歳代で 89.6%であった。(図 49)

図 49 かかりつけ歯科医を持つ者の割合(性・年齢階級別)

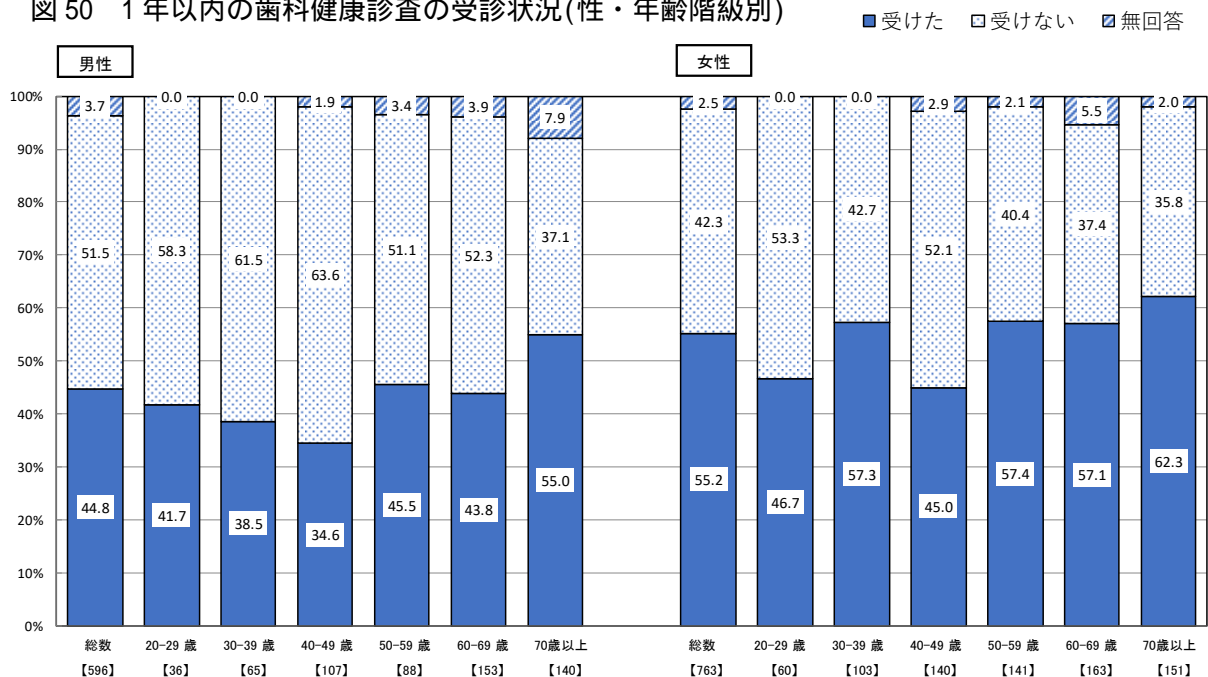


※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

定期的な歯科健診として、1年以内に歯科健康診査を受けたことがあると回答した者の割合は男性 44.8%、女性 55.2%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男女ともに 70 歳以上で男性 55.0%、女性 62.3%であった。(図 50)

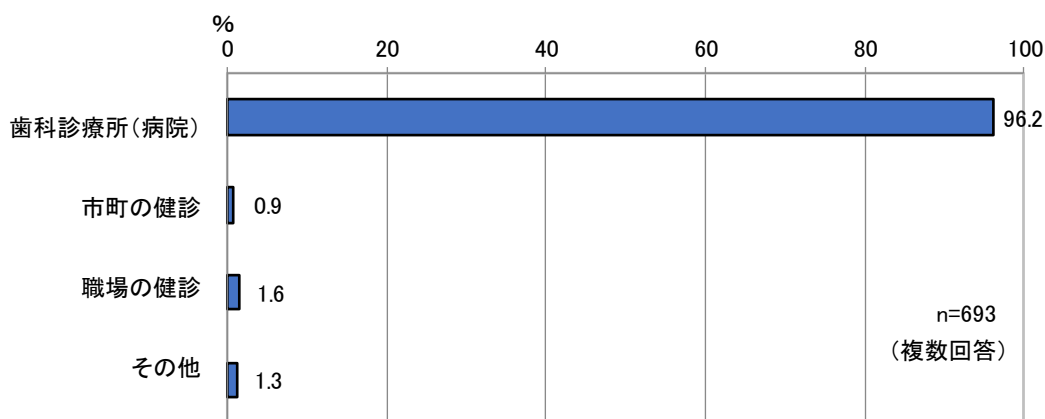
また、受診場所は「歯科診療所」と回答した者の割合が 96.2%と最も高かった。(図 51)

図 50 1年以内の歯科健康診査の受診状況(性・年齢階級別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

図 51 歯科健診を受診した場所

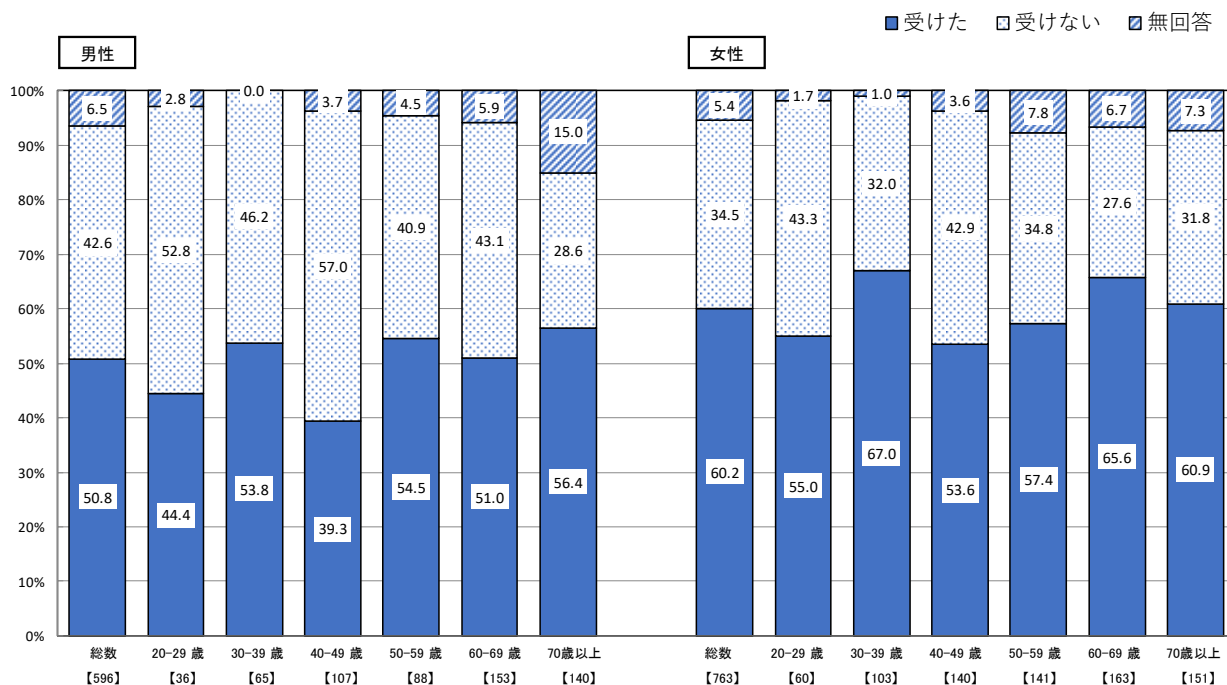


※総数に性別無回答5人含む

この1年間に歯科健康診査を受けましたかの問いに対し、「受けた」と回答した者が回答

1年以内に歯科診療を受けたことがあると回答した者の割合は男性50.8%、女性は60.2%であった。年代別ではその割合が最も高かったのは、男性は70歳以上で56.4%、女性は30歳代で67.0%であった。(図52)

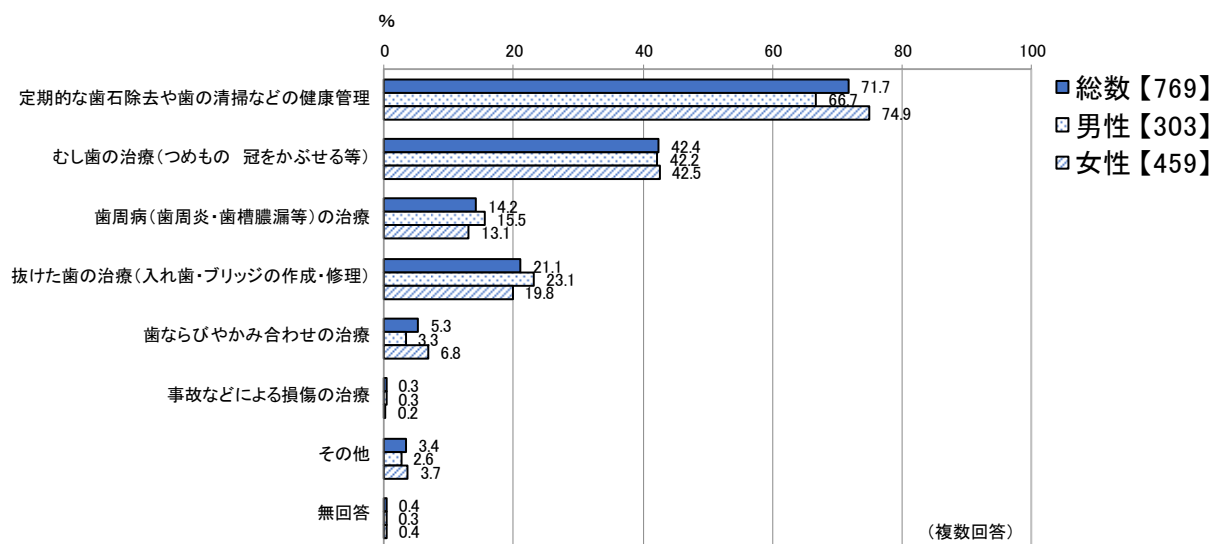
図 52 1年以内の歯科診療の受診状況(性・年齢階級別)



※総数に年齢無回答男性7人、女性5人含む

1年以内の歯科診療内容は、男女ともに「定期的な歯石除去や歯の清掃等の健康管理」と回答した者の割合が71.7%と最も高く、その割合は男性66.7%、女性74.9%であった。次いで「むし歯の治療」42.4%、「抜けた歯の治療」21.1%であった。（図53）

図53 1年以内の歯科診療内容（性別）



※総数に性別無回答7人含む

この1年間に歯科診療所や病院の歯科診療科で診療（訪問診療を含む）を受けましたかの問いに対し、「受けた」と回答した者が回答